

アジア経済と環境

担当教員 呉 錫畢

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

急速なアジアの経済成長は、同時に環境問題も急速に現れている。しかし、環境問題は一国だけの問題で留まることではない。この講義では、経済が急成長している東アジア、特に日本、韓国、中国、インド等を中心に、経済成長の背景を見た上で、どのような環境問題に直面しているのか。アジアの環境問題を、特に経済成長や産業構造の観点で、じっくり、考えながら、教科書のみならず、ビデオや写真を通して、経済と環境問題の相互関係を分かりやすく、解説する。しかし、一方的な講義形式ではなく、互いに論じ合う講義になる。

【授業の展開計画】

- 1週目：アジア的経済成長
- 2週目：アジア的環境問題
- 3週目：中国の社会変化と経済
- 4週目：中国のエネルギー状況
- 5週目：中国の経済成長と環境問題
- 6週目：日本の経済成長と産業公害
- 7週目：日本のエネルギーと経済
- 8週目：台湾の経済成長と環境問題
- 9週目：韓国の経済成長と環境問題
- 10週目：インドの経済と社会変化
- 11週目：インドのエネルギーと環境問題
- 12週目：国際エネルギー情勢の現状1
- 13週目：国際エネルギー情勢の現状2
- 14週目：持続的発展に関する世界サミット概観
- 15週目：地球温暖化とCOP3・COP15におけるアジア経済の観点
- 16週目：期末試験

【履修上の注意事項】

講義を聴いている人に迷惑をかけること。アジア的考えを少し持って欲しい。アジア的考えって何？。自ら考えてもらいたい。

【評価方法】

期末試験、レポート、特に出欠を大事にする。

【テキスト】

基本的には資料を配布する。そして、講義内容と関連する文献をそのつどに紹介する。

【参考文献】

- ①井出亜夫編（2004）、『アジアのエネルギー・環境と経済発展』、慶応義塾大学出版社。
- ②『井上 真(編集)、『アジア環境白書』、東洋経済新報社。

エコフィロソフィ論

担当教員 武田 一博

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では、エコロジーを取り巻く諸問題を哲学のサイドから考えることを目的とする。それは具体的には、農業にせよ工業生産にせよ、人類は自然を開拓・改変・利用することによって文明を進歩・発展させてきたという歴史をもつ中で、はたして人類は自然と共生・和解することができるのか、を考えることである。そして、そのことは、人間と自然の関係を問い直すことでもある。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講師自己紹介、エコロジーを哲学するとは
2	成績評価について、哲学することについて
3	エコロジーとは何か、何が問題か
4	人間の文明とは何かー開発・進歩
5	農林業とエコロジー
6	工業とエコロジー
7	環境とは何かー自然、生命、身体
8	産業文明と外部不経済
9	「環境に優しいクルマ」は存在するか
10	環境問題は技術によって解決可能か
11	市場社会の問題
12	産業労働の問題
13	ライフスタイルの問題
14	エコロジー的な生き方とは
15	受講生の感想・評価、レポート提出
16	

【履修上の注意事項】

私語と居眠りは教室の外で行なってもらいます。

【評価方法】

基本的にはレポートによって成績を評価する。途中で課題をだすこともある。課題は、内容によって、評価に上乘せする。出席点は、成績に考慮しない。

【テキスト】

武田一博『市場社会から共生社会へ』青木書店1998年
尾関・亀山・武田編『環境思想キーワード』青木書店2005年

【参考文献】

演習 I

担当教員 名城 敏

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

演習 I

担当教員 呉 錫畢

対象学年 3年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

演習 I では、なにが環境危機を招いたか、という問題意識からスタートする。環境問題は知識のみではなかなか実感が湧いてこないのので、体験的な知識や問題意識を要求する。そして、演習の始まりは、‘なぜ?’という疑問から始まる。沖縄のサンゴ礁の破壊はなぜ?地球温暖化問題はなぜ?その疑問のなかで一つの糸口として、タダである環境に価格を付ける手法を自ら体得する基本を演習する。つまり、本演習では、‘環境はいくらか’を探り、足元から地球環境問題を熱く考察する。

【授業の展開計画】

- 1週目：学問とは
- 2週目：学問を論文で表現する
- 3週目：口頭発表の作法と技法
- 4週目：レジュメの作り方
- 5週目：環境と経済の物語 1
- 6週目：環境と経済の物語 2
- 7週目：沖縄環境問題の課題の調査
- 8週目：調査の報告と討論
- 9週目～15週目：調査の報告と討論
- 16週目：期末テスト（共同討論会）
- 17週目～21週目：夏休み中の調査をグループ別に発表と討論
- 22週目～26週目：討論結果のグループ別資料集作成及び検討
- 27週目～30週目：資料を中心にホームページへの表現技術
- 31～32週目：総括と表現の決算

【履修上の注意事項】

演習は、自分の問題意識を持つことが大事である。

【評価方法】

発表や討論を参照

【テキスト】

小林・船曳編（1994）、『知の技法』、東京大学出版会。

【参考文献】

- ①藤崎成昭編（1992）、『発展途上国の環境問題（豊かさの代償・貧しさの病）』、アジア経済研究所。
- ②鶴見良行（1992）、『ナマコの眼』（ちくま学芸文庫）、筑摩書房。

演習 I

担当教員 小川 護

対象学年 3年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

演習 I（経済地理学演習 I）では①経済地理学の調査・研究に必要な地域調査の考え方と手法の把握。②調査によって得られたデータを用いて基礎的なGIS地域分析手法を用いて空間的な特性の一端を明らかにする。③夏休みを利用して、国頭村において、地域農業と環境問題をテーマとする地域調査を実施する予定である。後期は、この地域調査で得られたデータをもとに、分析、考察をおこない、調査者による結果報告会（発表プレゼンテーションの訓練）を実施し、最終的に報告書にまとめる。また、並行して経済地理学論文の輪読も実施する。

【授業の展開計画】

週	授業の内容	週	授業の内容
1	経済地理学の地域調査の目的と役割	17	デジタル地図の表示と装飾②
2	調査の種類について	18	バッファーとティポリゴン
3	データの種類と資料の活用方法	19	重ね合わせ分析法①
4	仮説の構築と検証	20	重ね合わせ分析法②
5	調査票の設計と調査実施方法	21	通路ネットワーク分析法①
6	ヒアリング調査について	22	通路ネットワーク分析法②
7	調査データの集計方法の設計と実際(2回)	23	三次元表現について
8	基本統計量の説明と算出(2回)	24	GPSデータ取得とレイヤー作成
9	夏休みの地域調査準備	25	経済地理学論文購読(5回)
10	夏休みの地域調査結果発表会	26	経済地理学論文(卒論)の執筆へのとりくみ
11	空間データの種類と取得	27	報告書の配布とまとめ
12	空間データ構造	28	
13	地図測地系と座標系	29	
14	レイヤーの編集	30	
15	レイヤーの構造	31	
16	デジタル地図の表示と装飾①		

【履修上の注意事項】

出欠を重視する。課題提出は厳守のこと。演習 I での発表にあたっては発表内容等について事前に指導教授のチェックを受ける事。

【評価方法】

演習 I での出席状況、発表・発言などの参加度、課題提出等で総合的に判断する。

【テキスト】

毎回、プリントを配布する。日本地理学会『地理学評論』、人文地理学会『人文地理』など

【参考文献】

青野壽郎他著『人文地理学調査法』朝倉書店、正井泰夫他著『卒論作成マニュアル』古今書院、後藤真太郎他『MMANDARAとExcelによる市民のためのGIS講座ーパソコンで地図をつくらうー』古今書院

演習 I

担当教員 根路銘 もえ子

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

本演習では、沖縄の主力産業である観光産業の現状を把握し、今後の発展について議論する。また、観光情報産業において活用されている地理情報システム（GIS）の基本についての学習も行い、観光産業と情報産業の融合について考える。

【授業の展開計画】

演習形態としては、インターネットおよび現地調査による観光に関する情報の収集、収集データの分析、文献の講読、データ分析結果・文献内容の発表、議題に関する議論を行う。

GISの基本的機能の学習内容としては、空間データの種類や空間データ構造、地図測地系・座標系、レイヤ構造・編集、デジタル地図の表示や各種分析法について学習する。

- (1) データ収集・分析手法の学習
- (2) 観光産業の現状把握
「観光白書」等の講読
個人単位で分担箇所の解説。
- (3) 観光に関するテーマに関する調査
グループ単位でテーマに関する調査および発表（グループ学習）
- (4) GISに関する学習
GISの基本的機能を学習。
- (5) GISを利用した観光情報提供
グループ単位で観光情報への応用を検討する。（グループ学習）

【履修上の注意事項】

【評価方法】

出席状況、レポート、研究発表内容により総合的に評価する。

【テキスト】

テキストは講義時に指定する。

【参考文献】

参考文献は講義時に紹介する。

演習 I

担当教員 友知 政樹

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

本演習 I の目的は、地域環境政策の立案・実施・評価に関連付けた社会調査の全段階を体験・学習することを通して、社会調査の理論と方法を体得することである。概要は、社会調査の理論と方法を教科書や先行研究より事前に学習し、地域環境政策の立案・実施・評価を行うとの想定のもと、それに必要な社会調査を設計・実施し、収集したデータを分析し、報告書にまとめることである。社会調査はキャンパス内外で行う予定である。

【授業の展開計画】

- ① 4月～5月 社会調査に関する事前学習
- ② 6月～7月 政策ならびに調査テーマの設定
- ③ 8月～9月 調査準備
- ④ 10月 第1回目調査の実施と結果の分析
- ⑤ 11月 政策の立案と実施
- ⑥ 12月 第2回目調査の実施と結果の分析
- ⑦ 1月～3月 総まとめと報告書作成

【履修上の注意事項】

政策により世の中を良くしたいという熱い思いのある学生を求む。

【評価方法】

ゼミへの貢献度や提出物などにより総合的に評価する。

【テキスト】

『社会調査へのアプローチ—論理と方法（第2版）』 大谷信介(著), 後藤範章(著), 永野武(著), 木下栄二(著), 小松洋(著). ミネルヴァ書房(2005/02).

【参考文献】

随時紹介する。

演習 I

担当教員 山川（矢敷） 彩子

対象学年 3年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

沖縄県は、地理特性上、生物多様性が非常に高い。沖縄県の豊かな自然を目的に訪れる観光客は年々増加しており、持続可能な観光と自然環境の利用が広く叫ばれている。演習では、見過ごされがちな海岸生物を対象に、専門書の購読、聞き取り調査、および現地調査等を実施する。演習 I は事前の予備登録で許可された学生のみ、登録可能とする。その他は、研究室（9-505）に相談に来ること。ゼミの内容を効果的に学習するために、私が担当している「環境資源論」と「産業と環境」は、2・3年次のうちに必ず講義を受講すること。

【授業の展開計画】

演習は主に以下の4つからなる。

(1) 海岸生物に関する実習

海岸にどのような生物が生息しているか調べ生物の役割や体の構造について野外実習と室内実験から学ぶ。実習は週末に集中で実施する。

(2) 生物や自然環境に関するグループ研究

サンゴ礁、干潟、やんばる、河川、タイモ畑、湧水など沖縄の自然環境やそこに生息する生物に関して、教員の指導の下、グループで研究をおこなう。

(3) レポート作成・発表

(1)、(2)の実習後、データを処理・分析し考察を加えレポートとしてまとめる。基本的なグラフや表の作成はもちろん、レジメやパワーポイントを用いて発表をおこなう。

(4) 輪読

自然科学に関する専門書を読み込み、レジメを作成し、パワーポイントで発表する。

【履修上の注意事項】

次のような学生を特に歓迎！ ①海や生き物が好き ②体力があって元気 ③アルバイトの融通が利く
事前の予備登録で許可された学生のみ、登録可能とする。その他は、研究室（9-505）に相談に来ること。

ゼミの内容を理解し、効果的に学習するために、私が担当している「環境資源論」と「産業と環境」は、2・3年次のうちに必ず講義を受講すること。また、共通科目の生物学や生態学関連講義を出来る限り受講すること。

【評価方法】

単位取得には、3分の2以上の出席、課題（レポート、レジメ）の提出、およびプレゼンテーションの実施が必須である。

評価は、ゼミにおける発言の内容やレポート、プレゼンテーションの内容により総合的に評価する。欠席する場合には、事前に必ず連絡をすること。メールによる連絡を受け付ける。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

適宜紹介する。

演習 I

担当教員 上江洲 薫

対象学年 3年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

本演習の目的は、受講生が社会調査のすべての課程を経験することによって、社会調査の理論と方法を体得すること、また、産業界の環境保全の取り組み状況について理解を深めることである。具体的には、観光関連産業（ホテル、旅行代理店、運輸業）や流通業（小売・卸）などの業界の環境保全の取り組み内容を調べ報告する。また、夏休み期間に、離島などで地域調査（調査票の配布・回収、聞き取り調査）を実施する。この調査で得られたデータをもとに分析・考察を行い、報告書を作成する。

【授業の展開計画】

- 第1回 ガイダンス、講読担当の割り振り
- 第2～3回 環境ビジネスの特徴
- 第4～8回 各産業界の環境保全の取り組み動向の発表（グループ学習）
- 第9～11回 調査の企画、仮説の構成
- 第12～14回 調査項目の設定、質問文・調査票の作成、対象者の選定
- 第15～16回 地域調査対象地域における既存データの分析
- 第17回 後期ガイダンス
- 第18～21回 地域調査結果の集計・分析
- 第22～25回 仮説の検証、調査報告書作成
- 第26～31回 企業の環境保全の取り組み動向調査・報告（各受講生が発表）
- 第32回 まとめ
- 第

【履修上の注意事項】

本演習は産業界の環境保全の取り組み、環境ビジネス、地域環境政策に関心があり、フィールドワークに積極的に取り組める学生に向いている。

【評価方法】

出席状況（2/3以上）、レポート、発表、野外調査、報告書作成により総合的に評価する。

【テキスト】

特に指定はない。

【参考文献】

大谷信介他編著（2005）『社会調査へのアプローチ—論理と方法—』（第2版）ミネルヴァ書房。盛山和夫（2004）『社会調査法入門』有斐閣。佐藤郁哉『フィールドワーク』（新曜社）

演習 I

担当教員 前泊 博盛

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

「動態経済学」を、沖縄振興策のフィールドワークを通して学びます。沖縄の経済振興策として整備された様々な社会インフラやソフトインフラ（制度・政策）の実効性、課題を、個別具体的な施設・制度の検証を通して検証し、調査・取材力、筆力、人間力の向上を目指します。適宜、県内経済界、政界、行政マンをゲストに招き、研究を深めます。

【授業の展開計画】

【授業の展開計画】

- 1：演習の進め方
- 2：個別テーマの選定、グループ分け
- 3：テーマ研究と調査報告①
- 4：テーマ研究と調査報告②
- 5：テーマ研究と調査報告③
- 6：テーマ研究と調査報告④
- 7：テーマ研究と調査報告⑤
- 8：テーマ研究と調査報告⑥
- 9：テーマ研究と調査報告⑦
- 10：ディベート研究（ディベートの基本）
- 11：ディベート研究①
- 12：ディベート研究②
- 13：ディベート研究③
- 14：ディベート研究④
- 15：前期総括
- 16：レポート提出

【後期】

ゼミ生の意向を踏まえ、新たな演習方針を決定します。

【履修上の注意事項】

新聞を毎日読むこと。資料・本代を惜しまないこと。

【評価方法】

課題（レポート）の提出、出席状況で総合的に評価を行う。

【テキスト】

沖縄振興開発等総点検報告書（沖縄県、2010年6月）など

【参考文献】

・検証 沖縄問題／百瀬恵夫・前泊博盛著／東洋経済新報社
岩波ブックレット『もっと知りたい！本当の沖縄』（前泊博盛著、岩波書店）

演習 I

担当教員 永田（島袋） 伊津子

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

- ・金融論の入門書を講読し、基礎的な知識を定着させる。
- ・金融の面から地域経済・環境政策について理解を深める。

【授業の展開計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 金融に関する入門講座（1）
- 第3回 金融に関する入門講座（2）
- 第4回 金融に関する入門講座（3）
- 第5回～第15回 グループごとにテーマを設定し、調査を行う。
- 第16回 報告会

【履修上の注意事項】

以下のような方がこの演習に適していると思います。

- ・金融、経済に関心がある。
- ・通常授業だけでなく、課外での活動に積極的に参加できる。

関連科目：「金融論Ⅰ・Ⅱ」「国際金融論Ⅰ・Ⅱ」「ファイナンシャルプランニング」「証券市場論Ⅰ・Ⅱ」

【評価方法】

2/3以上の出席、宿題・レポート提出、報告を単位取得の条件とします。

【テキスト】

特に指定しない

【参考文献】

「入門金融」吉野直行・高月昭年（編著）有斐閣、「エコノミクス入門金融」池尾和人（編著）ダイヤモンド社
「入門 証券論」榊原茂樹、他（著）有斐閣、「ファースト・ステップ金融論」岸真清・藤波大三郎（著）経済法令研究会

演習Ⅱ

担当教員 名城 敏

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

演習Ⅱ

担当教員 山川（矢敷） 彩子

対象学年 4年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

沖縄県は、地理特性上生物多様性が非常に高い。沖縄県の豊かな自然を目的に訪れる観光客は年々増加しており、持続可能な観光と自然環境の利用が広く叫ばれている。演習では、沖縄の自然環境や生物、それらの保全に関して、専門書の購読、卒業研究の実施、卒業論文の制作をおこなう。演習Ⅰ（山川ゼミ）を登録した学生について、Web登録を許可する。

【授業の展開計画】

演習は主に以下の2つからなる。

(1) 卒業研究

卒業研究の内容は自由であるが、できれば沖縄の自然環境や生物およびそれらに関するを中心にこなうことが望ましい。

<過去の卒業研究の例>

- ・沖縄の海の危険生物に関する意識調査
- ・沖縄本島におけるウミガメの産卵場所に関する聞き取り調査
- ・泡瀬干潟におけるホソバウミジグサの観察
- ・宇座海岸におけるイノエの生物の動向調査
- ・金城ダムにおける外来魚ジルティラピアの成長と産卵期推定
- ・佐敷干潟に生息するミナミコメツキガニの個体群動態
- ・泡瀬干潟の利用形態に関する聞き取り調査

(2) 輪読

知識・教養の向上を目的に、自然科学に関する専門書を読み込み、レジメを作成し、パワーポイントで発表する。

【履修上の注意事項】

演習Ⅰ（山川ゼミ）を登録した学生について、Web登録を許可する。その他の学生は、事前に研究室（9-505）に相談に来ること。

【評価方法】

単位取得には、3分の2以上の出席、課題（レポート、レジメ）の提出、およびプレゼンテーションの実施が必須である。就職活動による欠席は公欠と認められないので、注意すること。評価はゼミにおける発言の内容、卒業研究への取り組み姿勢、課題の出来などを総合し実施する。欠席する場合には、事前に必ず連絡すること。メールによる連絡を受け付ける。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

適宜紹介する。

演習Ⅱ

担当教員 呉 錫畢

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

演習Ⅰで習得した知識に基づいて、演習Ⅱでは、実際に足を運んで生のデータによって学問を表現する、つまり、文章を持って知を表現する。具体的には、一例として、環境価値の評価を生のデータを持って調査し、その地域における。環境価値を貨幣で表し、それを各自の視点でまとめていく演習を行う。

【授業の展開計画】

- 1週目：卒業論文とは
- 2週目：卒業論文の作法と技法
- 3週目：環境・経済調査の方法1
- 4週目：環境・経済調査の方法2
- 5週目：参考資料を利用する
- 6週目：沖縄環境問題の課題の調査
- 7週目：環境と地域発展について論ずる 1
- 8週目：環境と地域発展について論ずる 2
- 9週目：調査の報告と討論
- 10週目～15週目：調査の報告と討論
- 16週目：期末テスト（共同討論会）
- 17週目～21週目：夏休み中の調査をグループ別に発表と討論
- 22週目～25週目：討論結果のグループ別資料集作成及び検討
- 26週目～29週目：資料を中心にホームページへの表現技術
- 30～31週目：総括と表現の決算
- 32週目：期末テスト（共同討論会）

【履修上の注意事項】

演習は、自分の問題意識を持つことが大事である。

【評価方法】

発表や討論を参照

【テキスト】

- ①小林・船曳編（1994）、『知の技法』、東京大学出版会。

【参考文献】

- ①植田和弘（1998）、『環境経済学への招待』、丸善ライブラリー。
- ②植田和弘監修（1994）、地球環境キーワード（環境経済学で読み解く）、有斐閣双書。

演習Ⅱ

担当教員 永田（島袋） 伊津子

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

演習Ⅰで学んだ知識を基に卒業論文を完成させる。

【授業の展開計画】

前期は卒業論文作成作業を行い、後期は各自の卒業論文作成作業の進捗状況を報告する。

【履修上の注意事項】

【評価方法】

出席・宿題・レポート・卒業論文に基づいて総合的に評価する。

【テキスト】

適宜指示する。

【参考文献】

演習Ⅱ

担当教員 友知 政樹

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

3年次の演習Ⅰで行った予備調査を踏まえ、地域環境政策に関する調査研究を行う。調査研究はゼミ生各自が能動的かつ自由に行い、成果を卒業論文としてまとめ、提出する。

【授業の展開計画】

前期：調査研究の進捗状況に応じ、発表・討論・情報交換を行う。
後期：卒業論文執筆および最終発表を行う。

【履修上の注意事項】

原則として3年次に演習Ⅰ（友知ゼミ）を履修すること。

【評価方法】

ゼミでの取り組み（能動的に参加しているか）と卒業論文とを合わせて評価する。

【テキスト】

必要に応じて紹介する。

【参考文献】

必要に応じて紹介する。

演習Ⅱ

担当教員 根路銘 もえ子

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

本演習では、演習Ⅰで各自が設定した観光情報およびGIS利用に関するテーマについて、詳細な調査や実装を行い、調査・実装結果に考察を加え、卒業論文をまとめる。

演習の時間は、各自の進捗状況を報告してもらい、調査方法や調査内容について、ゼミ生同士で意見交換や議論する時間とする。

【授業の展開計画】

- (1) テーマに関する情報収集
- (2) 現地調査
- (3) 研究の進捗状況発表
- (4) 卒業論文のまとめ

【履修上の注意事項】

【評価方法】

出席状況、卒業論文の内容により総合的に評価する。

【テキスト】

テキストは講義時に指定する。

【参考文献】

参考文献は講義時に紹介する。

演習Ⅱ

担当教員 小川 護

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

卒論作成のための調査、卒論中間発表会、卒論作成までを指導する。論文作図にあたってはGISソフト活用を積極的に勧める。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	第1回オリエンテーション	17	
2	第2回～第15回まで卒論に関する文献紹介	18	
3	第15回～第28回 卒論中間報告	19	
4	第29回卒論提出、校正、卒論をPDFにする	20	
5	第30回 卒論報告会	21	
6		22	
7		23	
8		24	
9		25	
10		26	
11		27	
12		28	
13		29	
14		30	
15		31	
16			

【履修上の注意事項】

出席を重視するので休まないこと。就活等で欠席する場合にはあらかじめ届けを出すこと。8月に県立糸満青年の家にて、前半総括の卒論中間報告会を実施する。

【評価方法】

ゼミの中での発表状況、出席状況および卒論の内容等で総合的に判断する。

【テキスト】

ゼミの中で適宜紹介する。

【参考文献】

演習Ⅱ

担当教員 上江洲 薫

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

本演習では、演習Ⅰで取得した企業の環境保全の取り組み方法や社会調査の手法などに基に、各自が設定したテーマに沿って現地での詳細な調査および考察を行い、その内容を卒業論文にまとめる。この過程により、情報収集・分析・プレゼンテーション・企画力の能力をより一層高め、一般社会で適応できる能力を身につける。

【授業の展開計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2～3回 卒論テーマの設定とその選定理由
- 第4～8回 卒論テーマに関連する論文紹介
- 第9～11回 卒論テーマに関する現状・課題の把握
- 第12～14回 調査項目の設定、対象者・対象地域の選定、質問文・調査票の作成
- 第15～16回 調査の対象者・対象地域における既存データの分析
- 第17回 後期ガイダンス
- 第18～25回 調査データの分析・卒論の中間報告・作成
- 第26～31回 卒論仮提出・添削、卒論本提出
- 第32回 卒論報告会

【履修上の注意事項】

出席を重視する。また、受講生は目的を持って計画的に行動すること。

【評価方法】

出席状況（2/3以上）、発表状況、卒論内容などにより総合的に評価する。

【テキスト】

特に指定はない。

【参考文献】

演習時に紹介する。

沖縄経済論 I

担当教員 前泊 博盛

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

沖縄県経済の実像を、統計データの分析を通して検証します。経済は、時として統計データと実態との乖離が生じます。より正確な実態経済の把握のためには、多角的な視点とフィールドワークが不可欠です。「常識」を疑い、「実態」を把握する手法を学びます。必要に応じてゲスト講師を招き、リアルな沖縄の実態経済を語っていただきます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義ガイダンス
2	沖縄経済の課題
3	人口と雇用・失業—高失業、低賃金、低所得の背景
4	産業構造の変遷
5	3 K 経済—基地経済
6	3 K 経済—財政依存経済
7	3 K 経済—観光
8	新 6 K 経済—金融
9	新 6 K 経済—健康、環境
10	新 6 K 経済—交通（運輸・航空・海運）
11	新 6 K 経済—教育、研究
12	沖縄経済特区＝IT特区、情報通信産業
13	沖縄経済特区＝観光特区、
14	沖縄経済特区＝自由貿易地域、特別自由貿易地域
15	沖縄経済の展望（前期総括）
16	前期試験

【履修上の注意事項】

沖縄経済論 I（前期）、沖縄経済論 II（後期）を通期で履修が望ましい。

【評価方法】

出席と最終試験などにより総合的に評価する。

【テキスト】

毎回、資料を配布（メール配信）します。

【参考文献】

「検証 沖縄問題～復帰30年経済の課題と展望」／百瀬恵夫・前泊博盛著／東洋経済新報社

沖縄経済論Ⅱ

担当教員 前泊 博盛

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

沖縄経済論Ⅱでは、・沖縄経済振興策について学びます。
政府による沖縄振興計画とは何か。地域経済振興政策としての沖縄振興開発計画の策定過程から実施にあたっての課題を検証します。必要に応じて、行政や企業トップなどゲスト講師を招き、論議を深めていきます。

【授業の展開計画】

【授業の展開計画】

- 1：講義の進め方
- 2：第一次産業＝農業
- 3：第一次産業＝水産業、畜産業
- 4：第二次産業＝建設業
- 5：第二次産業＝製造業
- 6：第三次産業＝サービス業
- 7：地方財政と経済振興策
- 8：市町村と産業政策
- 9：離島経済＝宮古群島
- 10：離島経済＝八重山群島
- 11：離島経済＝沖縄本島周辺離島
- 12：基地返還と沖縄振興
- 13：カジノ構想と沖縄観光
- 14：経済のグローバル化と沖縄経済
- 15：沖縄経済の総括
- 16：後期試験

【履修上の注意事項】

沖縄経済論Ⅰ（前期）、沖縄経済論Ⅱ（後期）を通期で履修が望ましい。

【評価方法】

出席と最終試験などにより総合的に評価する。

【テキスト】

毎回、資料を配布（メール配信）します。

【参考文献】

- ・「検証 沖縄問題～復帰30年経済の課題と展望」／百瀬恵夫・前泊博盛著／東洋経済新報社
- ・「沖縄振興計画」（内閣府）
- ・その他、講義時に紹介します

沖縄社会統計論

担当教員 友知 政樹

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

沖縄に関する様々な統計資料を使い、沖縄の社会の過去、現在、未来について考える。データに基づいて沖縄を理解することに努める。

【授業の展開計画】

講義の際に詳しく説明する。

【履修上の注意事項】

特になし。

【評価方法】

出席状況、議論への参加度、小テスト、最終試験などにより総合的に評価する。

【テキスト】

講義の際に詳しく説明する。

【参考文献】

講義の際に詳しく説明する。

環境アセスメント I

担当教員 玉城 重則

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

道路建設、港湾建設、ダム建設等、各種開発事業の実施による環境への影響を事前に予測評価して、その対策を検討することが良好な環境を保全し、持続可能な開発を行うために、必要不可欠となっている。環境アセスメント I では、このような環境影響評価の実施に関連する法律、現地調査手法、予測評価手法等について学ぶ。

【授業の展開計画】

1. 講義ガイダンス（環境アセスメントとは）、テキスト・参考図書の紹介等
2. 環境影響評価に関する法律（環境影響評価法）
3. 環境影響評価に関する法律（沖縄県環境影響評価条例）
4. 大気質の環境影響評価（現況調査）
5. 大気質の環境影響評価（予測と評価）
6. 騒音の環境影響評価
7. 振動の環境影響評価
8. 前半の総括
9. 悪臭の環境影響評価
10. 水質の環境影響評価（現況調査）
11. 水質の環境影響評価（予測と評価）
12. 生態系の環境影響評価（現況調査）
13. 生態系の環境影響評価（予測と評価）
14. 景観等の環境影響評価
15. 環境アセスメント I の総括
16. 期末テスト

【履修上の注意事項】

【評価方法】

出席状況、テストおよびレポート提出等より総合的に評価する。

【テキスト】

テキストは特に指定しない。

【参考文献】

参考文献は適宜紹介する。

環境アセスメント II

担当教員 上原 辰夫

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

環境アセスメント I では、環境影響評価の実施に関連する法律、現地調査手法、予測評価手法等について講義を行ったが、環境アセスメント II では実際の環境影響評価事例について紹介する。その中で、大気、騒音、振動、水質、景観等について、数値シミュレーション等による影響予測手法の実例を学ぶ。

【授業の展開計画】

- 1 週目 講義内容紹介
- 2-7 週目 各種事業（道路建設、空港建設、港湾建設等）の事例紹介
- 8 週目 前半の総括
- 9-15 週目 大気質、騒音、振動、水質予測評価手法（シミュレーション）等の紹介
- 16 週目 期末テスト

【履修上の注意事項】

【評価方法】

出席状況、テスト、レポートなどに基づき評価する。

【テキスト】

テキストは特に指定しない。

【参考文献】

参考文献は適宜紹介する。

環境会計

担当教員 井口 千秋

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

「21世紀は環境の世紀」などと言われていますが、環境問題について行動するためには、環境にはどのような問題がありそれに対する解決策にはどんなものがあるのかという知識がなければ、気持ちがあっても行動はできません。そこで、本講義では環境問題について会計技術の側面から、環境会計の実態把握と企業の環境会計のあり方について理解を深めていただき、環境人としての知識を深めて頂きます。

【授業の展開計画】

1. レポートの書き方
 2. 環境学とは
 3. 会計学とは
 4. 環境会計とは
 - (ア) ISO14001
 - (イ) 環境庁ガイドライン
 - (ウ) 環境情報の開示
 5. 最新事例に学ぶ
- おわりに

【履修上の注意事項】

【評価方法】

出席，授業参加 50%
期末レポート 50%

【テキスト】

【参考文献】

環境科学実験

担当教員 新垣 武、名城 敏

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 実験実習

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

環境科学の履修過程において環境の現状把握に必要な現況観測は必要不可欠な事項だと考えられる。環境科学実験においては環境要素の中でも最も基本的な項目である水質、騒音についての測定手法を修得するとともに結果の取りまとめ方法を学ぶ。

また、今後の環境問題とその対策を考える上で重要な新エネルギーに関連する実験を行う。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義概要
2	水質分析、騒音測定、新エネルギー関連の実験
3	〃
4	〃
5	〃
6	〃
7	〃
8	〃
9	〃
10	〃
11	〃
12	〃
13	〃
14	〃
15	総括
16	レポート最終締め切り

【履修上の注意事項】

【評価方法】

出席状況、レポートなどを総合的に評価する。

【テキスト】

テキストは特に指定しない。参考文献は適宜紹介する。また、参考資料は適宜配布する。

【参考文献】

環境教育論

担当教員 砂川 かおり

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

従来型の「銀行型教育」ではなく、パウロ・フレイレが提起した「問題提起教育」をファシリテートできる力を育てる。沖縄市の泡瀬の海を素材にして、陸と海の繋がり（流域・植物等を中心に）、地域の歴史（環境・生活）、海の生物（貝・海草等）、（渡り）鳥に関して知識を深め、環境教育の授業を計画し、実践してみる。

【授業の展開計画】

第1週 講義概要説明 アイス・ブレーキング・課題提示
第2・3週 泡瀬干潟をめぐる自然環境・社会環境の概要（発表）
第4・5週 （土）野外活動：地域の歴史（自然環境・暮らしの変化を中心に）
第6週 事前学習：泡瀬の海の生物（講義）
第7・8週 （土）野外活動：泡瀬の海の生物（貝・海草等）
第9・10週 （土）野外活動：（渡り）鳥
第11週 野外活動のふりかえり・分かち合い、模擬授業グループ分け
第12週 各グループテーマ及びプログラム内容発表
第13週 各グループ 模擬授業準備
第14・15週 模擬授業
第16週 模擬授業のふりかえり・分かち合い

※都合により、予定が変わることがあります。

【履修上の注意事項】

受講生と相談の上、野外授業は、基本的に土曜日の午前中に行います。
野外授業では、沖縄市の泡瀬干潟付近に受講生に各自で直接集合してもらうことがあります。

【評価方法】

2/3以上の出席、レポートの提出及び模擬授業の実施を単位取得の最低条件とし、それらの内容を総合的に評価します。

【テキスト】

随時資料を配布します。

【参考文献】

- ・エココミュニケーションセンター『ファシリテーター入門—環境教育から環境まちづくりへ』（柘植書房新社、2002）
- ・川嶋宗継・市川智史・今村光章 編著『環境教育への招待』（ミネルヴァ書房、2002年）
- ・パウロ フレイレ『希望の教育学』（太郎次郎社、2001）、その他 適宜必要に応じて案内する。

環境経営

担当教員 井口 千秋

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

「21世紀は環境の世紀」などと言われていますが、環境問題について行動するためには、環境にはどのような問題がありそれに対する解決策にはどんなものがあるのかという知識がなければ、気持ちがあっても行動はできません。そこで、本講義では環境問題について企業経営の側面から、環境経営の実態把握と企業の環境政策のあり方について理解を深めていただき、環境人としての知識を深めて頂きます。

【授業の展開計画】

1. レポートの書き方
2. 環境学
3. 経営学
4. 企業の環境責任
(ア) ISO14000
5. 環境経営
(ア) 環境監査
(イ) 環境マネジメントシステム
(ウ) 環境パフォーマンス
(エ) 環境ラベル
(オ) ライフサイクルアセスメント

【履修上の注意事項】

【評価方法】

出席，授業参加 50%
期末レポート 50%

【テキスト】

【参考文献】

環境経済学 I

担当教員 呉 錫畢

対象学年 3年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

地球温暖化の問題がかつてなく大きくクローズアップされている今日である。何が地球環境問題をもたらしたのか。経済要因なきには語れない環境問題であるが、経済成長への優先は環境の犠牲をもたらす。しかし、環境を重視すれば経済成長の停滞を感受しなければならない。つまり経済成長と環境は効率と公正との緊張関係にあるのである。このような問題意識に基づいて、環境経済学の理論のみならず、身近な沖縄の環境問題を経済学の観点より分かりやすく解説する。さらに、無味乾燥ではない五感で感じる地域から環境経済学の講義になる。

【授業の展開計画】

- 1週目：環境と経済の話1
- 2週目：環境と経済の話2
- 3週目：沖縄経済と地域発展
- 4週目：環境破壊の経済的メカニズム
- 5週目：市場と外部経済
- 6週目：環境の経済価値
- 7週目：環境の価値評価の手段
- 8週目：開発と社会的共通資本1
- 9週目：開発と社会的共通資本2
- 10週目：環境政策の手段
- 11週目：沖縄経済発展と観光財
- 12週目：沖縄経済の特徴
- 13週目：沖縄経済のディレンマ
- 14週目：赤土汚染からみる沖縄の地域振興と開発
- 15週目：赤土汚染による生態系破壊
- 16週目：期末試験

【履修上の注意事項】

環境と経済に対して問題意識を持つこと。講義を聴いている人に迷惑をかけること。

【評価方法】

期末試験、レポート、出欠等を中心に評価する。

【テキスト】

呉錫畢 (2008) 『環境・経済と真の豊かさーテーゲー経済学序説ー』、日本経済評論社。

【参考文献】

- (1) 呉錫畢 (1999) 『環境政策の経済分析』、日本経済評論社。
- (2) 植田和弘 (1997) 『環境経済学』、岩波新書。その他、テーマに添って随時紹介する。

環境経済学Ⅱ

担当教員 呉 錫畢

対象学年 3年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義は、沖縄のサンゴ礁の持つ生態系や景観のような自由財の非利用価値を測り、地域経済の発展や豊かさの観点より環境経済学の視点より概説する。そして、自然の尊さを沖縄サンゴ礁の貨幣評価で表現し、沖縄観光経済の現在と将来を診断するとともに、さらに沖縄文化でもあるテーゲーの経済学化を試み、真の豊かさとは何かについて考察し、さらに真の豊かさから見る経済発展の新たなパラダイムを提示する。

【授業の展開計画】

- 1週目：環境はいくらか
- 2週目：CVM(仮想市場評価法)
- 3週目：赤土汚染からみる沖縄の地域振興と開発の功罪
- 4週目：赤土汚染による生態系及び環境の損害評価
- 5週目：沖縄におけるサンゴ礁の現状
- 6週目：サンゴ礁の生態系及び景観の経済評価
- 7週目：環境と沖縄の観光経済
- 8週目：竹富島とピノキオ観光
- 9週目：成長するアイルランド観光
- 10週目：アイルランド観光経済と沖縄観光
- 11週目：沖縄経済と済州経済
- 12週目：沖縄と済州の観光産業
- 13週目：内発的発展からみる沖縄経済の発展可能性
- 14週目：環境・経済・沖縄
- 15週目：真の豊かさとテーゲー経済学
- 16週目：期末試験

【履修上の注意事項】

環境と経済に対して問題意識を持つこと。講義を聴いている人に迷惑をかけること。

【評価方法】

期末試験、レポート、出欠等を中心に評価する。

【テキスト】

呉錫畢 (2008) 『環境・経済と真の豊かさーテーゲー経済学序説ー』、日本経済評論社。

【参考文献】

- (1) 呉錫畢 (1999) 『環境政策の経済分析』、日本経済評論社。
- (2) 植田和弘 (1997) 『環境経済学』、岩波新書。その他、テーマに添って随時紹介する。

環境資源論

担当教員 山川（矢敷） 彩子

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義では、受講生が琉球列島における自然的環境資源について理解を深めることを目的として、サンゴ礁、海草藻場、干潟、砂浜などにおける環境資源について学ぶ。最終的には、環境資源の有効利用の仕方および環境保全について考える。本講義は最終年次においても追試および再試験は実施しないので登録の際気をつけること。

【授業の展開計画】

講義では基本的に以下の内容を実施するが、講義の順番や内容は変更することがある。

週	授 業 の 内 容
1	講義ガイダンス
2	環境資源とは
3	日本および琉球列島の成り立ち
4	琉球列島の陸上生物
5	海の危険生物
6	砂浜環境と資源
7	干潟環境と資源
8	サンゴ礁の資源・磯の恵み
9	藻場環境と資源
10	サンゴ礁とは
11	サンゴ礁をめぐる問題①（オニヒトデの大量発生）
12	サンゴ礁をめぐる問題②（サンゴの白化）
13	サンゴ礁をめぐる問題③（破壊的漁業）
14	環境資源の有効利用（エコツーリズム）
15	総括
16	期末試験

【履修上の注意事項】

登録調整期間の出席状況も評価に反映する。
 欠席理由に関わらず、3分の1以上の欠席は不可となる。
 出席で代筆が明らかとなった場合は不可となる。
 最終年次においても追試は実施しないので気をつけること。

【評価方法】

講義の際に毎回記入するフィードバックシート（意見、感想、質問）の内容、試験およびレポートの内容により総合的に評価する。3分の1以上の欠席、課題の未提出、試験を欠席した学生には単位を与えない。

【テキスト】

テキストは指定しない。必要に応じて資料を配布する。

【参考文献】

必要に応じて紹介する。

環境政策書講読 I

担当教員 砂川 かおり

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義は、環境に関する本を読むことを通じて環境についての基礎知識を習得することともに、批判的・理論的に読む力をつけることを目的にしている。具体的には、「生物多様性」について学習していく。

【授業の展開計画】

生物多様性と企業活動に関する文献を講読していく。

具体的には、

- ①受講生が担当する部分(5～10ページ程度)をまとめ、環境関連の用語も説明していく。
- ②教員が必要な箇所については、詳しく説明する。
- ③可能な限り講読した部分に関連しての討論も行う。

教員による説明では可能な限り、映像資料も使用する予定である。

第1週 講義概要説明・発表担当割り振り

第2～13週 『企業のためのやさしくわかる「生物多様性」』を講読

第14～15週 『世界に乗り遅れないための 生物多様性読本』を講読

授業後にリアクションペーパーを記述し、次の授業の時に提出する。

リアクションペーパーは、授業で学んだこと、感想及び質問を記述して提出する。

【履修上の注意事項】

初回のガイダンスには必ず出席して下さい。授業の内容を説明し、発表担当割り振りを行います。

【評価方法】

成績評価は発表、リアクションペーパー、出席および講義への参加姿勢を総合的に評価する。

【テキスト】

枝廣 淳子・小田 理一郎 (2009) 『企業のためのやさしくわかる「生物多様性」』 (技術評論社)

【参考文献】

- ・日経エコロジー(2009) 『世界に乗り遅れないための 生物多様性読本』 (日経BP社)
- ・適宜必要に応じて案内する。

環境政策書講読Ⅱ

担当教員 砂川 かおり

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義は、環境に関する文章を読むことを通じて環境や環境政策等についての基礎知識を習得することともに、批判的・理論的に読む力を涵養することを目的にしている。

【授業の展開計画】

『環境白書 循環型社会白書/生物多様性白書』を講読する。

具体的には、

- ①受講生が担当する部分(5～10ページ程度)の要約と関連用語を説明したレジュメを作成し、発表する。
 - ②教員が、必要な箇所については詳しく説明する。
 - ③可能な限り講読した部分に関連しての討論も行う。
- 教員による説明では、可能な限り映像資料も使用する予定である。

第1週 講義概要説明・発表担当割り振り

第2～15週 『環境白書 循環型社会白書/生物多様性白書』 発表・講読

授業の最後にリアクションペーパーを配布する場合もある。

リアクションペーパーは、授業で学んだこと、感想及び質問等を記述して、次の授業の時に提出する。

【履修上の注意事項】

初回のガイダンスには必ず出席して下さい。授業の内容を説明し、発表担当割り振りを行います。

【評価方法】

出席、発表、リアクションペーパーと期末試験により評価します。

評価配分：出席・発表・リアクションペーパー50%、期末試験50%

【テキスト】

環境白書 循環型社会白書/生物多様性白書（平成24年版）

【参考文献】

適宜必要に応じて案内する。

環境政策特別講義Ⅰ（開発と環境）

担当教員 松島 泰勝（世話役：友知政樹）

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 集中

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では、琉球（奄美諸島、沖縄諸島、宮古諸島、八重山諸島）、太平洋諸島（パラオ、ミクロネシア連邦、マーシャル諸島、ハワイ、グアム、ツバル、フィジー、ニューカレドニア等の島々）という島嶼社会における地域経済について具体的に検討していく。現在、地域間格差が問われ、地域振興の必要性が主張されているが、政府が振興開発を実施すれば地域は経済自立するのであるか。これらの島々では経済自立を目指して振興開発が実施されたが、環境問題、社会問題、経済依存等、様々な問題が山積するようになった。本講義ではその原因を明らかにし、問題解決のために実践されている住民参加型の取り組みについて考察する。

【授業の展開計画】

(授業のねらい)

海によって閉ざされた小さな社会である島嶼では経済活動と非経済活動とが密接に結びついており、経済活動と、政治、軍事基地、歴史・文化、自然環境、住民自治、生活等との関係をも分析の対象にしたい。一方で海は島嶼を外部世界に開く役割も果たしている。海や国境を越えて島嶼の内外からヒト、モノ、カネが移動しており、広い範囲の地域経済圏が形成されている。本講義では太平洋諸島と中国、台湾、日本、米国、琉球との経済関係について論じる。そこに見られる、島の環境や生活を守るための住民や自治体の活動、大国が自らの政治経済的、軍事的影響力を拡大するための援助や政治介入、海や島の資源を対象にした企業投資、島嶼出身移民によるネットワーク等が島嶼の経済自立にとって有する意味を考える。

(講義方法)

毎回資料を配布し、映像教材を活用する。授業の終盤において質疑応答の時間を設ける。また学生を指名して発言する機会を与え、授業への積極的な参加を促す。何回か琉球関係のゲストをお招きして、地域経済に関する特別講義を行う。

(到達目標)

琉球、太平洋諸島を対象にして地域経済を自らの問題として考え、自らの地域（出身地、生活場所）が抱える経済問題を解決するための分析や解決の方法を身につけることができるようになること。

【履修上の注意事項】**【評価方法】**

40点：出席数、遅刻、授業態度、授業への参加度

20点：豆テスト

40点：レポート

【テキスト】**【参考文献】**

松島泰勝 『琉球独立への道』 法律文化社、2012年、 松島泰勝 『ミクロネシア』 早稲田大学出版部、2007年、 松島泰勝 『琉球の「自治」』 藤原書店、2006年、 松島泰勝 『沖縄島嶼経済史』 藤原書店、2001年

環境政策論 I

担当教員 呉 錫畢

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

地球温暖化の問題が叫ばれているが、それは経済成長に起因している。経済規模が益々巨大化される今日、循環型の経済を維持するための環境政策は可能なのか。経済発展を維持しつつ、環境政策の手法にはどのようなものがあるのか、経済学の観点から環境政策を解説する。市場に環境政策を取り組むデポジット制度、排出権取引、中古車が多い沖縄での廃車や廃タイヤ問題や赤土流出対策など、生活に密接関係がある基礎的な政策も含めて、分かる安く解説する。しかし、一方的な講義より、互いにディスカッションする場を設けたい。

【授業の展開計画】

1. 経済と環境への入門
2. 何が公害の原点の水俣病をもたらしたか
3. なぜ環境を学ぶのか
4. 持続可能な発展とは
5. 環境政策と政府の役割
6. 第二次世界大戦後の環境問題の変遷
7. 環境問題の国際化と環境政策の新たな展開
8. 経済政策からみる環境政策の手段
9. 環境政策の原則と指針
10. 環境政策の手法 (1) (総合的手法)
11. 環境政策の手法 (2) (規制的手法・経済的手法)
12. 地球温暖化問題と低炭素化社会を考える
13. 地球温暖化からみるCOP3とCOP15の意義
14. 人間と地球環境の安全保障
15. 地球温暖化の長期的な目標と低炭素社会
16. 沖縄経済と環境政策を論じる

【履修上の注意事項】

環境と経済、また地球環境問題に関心を持つことが望ましい

【評価方法】

期末試験、レポート、特に出欠を大事にする。

【テキスト】

松下和夫 (2007) 『環境政策のすすめ』 (京大人気講義シリーズ)、丸善株式会社。

【参考文献】

- ① 呉錫畢 (1999) 『環境政策の経済分析』、日本経済評論社。
- ② 石坂匡身 (2000) 『環境政策学—環境問題と政策体系』、中央法規出版。その他、テーマに添って随時紹介

環境政策論Ⅱ

担当教員 砂川 かおり

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

地方分権時代の環境政策法務のあり方、「環境公益」の具体化について実務と理論を学習する。環境政策における地方自治体の役割と課題、具体的には、自然保護、廃棄物処理、景観、自然再生、エネルギー政策、基地環境問題等、先進自治体や県内自治体の環境政策の取り組みや課題等について解説していく。

【授業の展開計画】

1. 講義概要説明
2. 3. 環境政策における地方自治体の役割と課題
4. 5. 地方自治体の環境政策「廃棄物処理」
6. 7. 地方自治体の環境政策「自然保護・公害問題（珊瑚礁保全、赤土流出等）」
8. 9. 地方自治体の環境政策「景観」
10. 11. 地方自治体の環境政策「自然再生」
12. 13. 地方自治体の環境政策「エネルギー政策」
14. 15. 地方自治体の環境政策「基地環境問題」

【履修上の注意事項】

【評価方法】

出席、レポートと期末試験により評価します。

【テキスト】

随時資料を配布します。

【参考文献】

①北村喜宣（2009）『自治体環境行政法（第5版）』、第一法規株式会社。その他、テーマに添って随時紹介

環境統計学 I

担当教員 友知 政樹

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義の目的は、様々な統計指標やグラフ、さらには基本的統計量などの読み方や算出方法などについて学ぶことである。具体的には、経済学部・地域環境政策学科で学んでいく際に重要な統計指標の理解を含め、記述統計学の基礎概念を全般的に学ぶ。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義ガイダンス
2	様々な統計指標とグラフ (1)
3	様々な統計指標とグラフ (2)
4	様々な統計指標とグラフ (3)
5	基本統計量 (1) 代表値① (平均値、中央値、最頻値)
6	基本統計量 (2) 代表値② (平均値、中央値、最頻値)
7	基本統計量 (3) 分散、標準偏差、変動係数
8	基本統計量 (4) 分散、標準偏差、変動係数
9	基本統計量 (5) 度数分布表、ヒストグラム
10	基本統計量 (6) 度数分布表、ヒストグラム
11	基本統計量 (7) 相関関係と因果関係、相関係数、擬似相関
12	基本統計量 (8) 相関関係と因果関係、相関係数、擬似相関
13	基本統計量 (9) クロス集計
14	総まとめ
15	最終試験
16	

【履修上の注意事項】

環境統計学IおよびIIの両方を履修することが望ましい。

【評価方法】

出席状況、小テスト、最終試験などにより総合的に評価する。

【テキスト】

未定

【参考文献】

・統計学の基礎、河野光雄・友知政樹共著、牧野書店 (¥1,900+税)。
 ・統計でウソをつく法 (数式を使わない統計学入門) ダレル・ハフ著、高木秀玄訳、講談社 (¥880+税)。

環境統計学Ⅱ

担当教員 友知 政樹

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義の目的は、統計的データの分析に必要な確率論の基礎や、推定・検定統計学、さらには相関係数や単回帰分析の手法の基本的概念を習得することである。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義ガイダンス
2	記述統計学の復習（1）
3	記述統計学の復習（2）
4	確率論の基礎（1）
5	確率論の基礎（2）
6	標本調査と中心極限定理
7	データの標準化と標準正規分布
8	点推定と区間推定（1）
9	点推定と区間推定（2）
10	統計的仮説の検定（1）
11	統計的仮説の検定（2）
12	相関係数、単回帰分析
13	単回帰分析、回帰係数の検定
14	総まとめ
15	最終試験
16	

【履修上の注意事項】

環境統計学IおよびⅡの両方を履修することが望ましい。

【評価方法】

評価方法 出席状況、小テスト、最終試験などにより総合的に評価する。

【テキスト】

未定

【参考文献】

・統計学の基礎、河野光雄・友知政樹共著、牧野書店（¥1,900+税）。・統計でウソをつく法（数式を使わない統計学入門）ダレル・ハフ著、高木秀玄訳、講談社（¥880+税）。

環境評価実践論

担当教員 野崎 四郎

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

政府の政策の経済的評価について幅広く概観する。環境問題を経済学の観点からみることによって環境問題が発生するメカニズムを明らかにし具体的な事例と対策を検討する事を目的とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	経済発展と環境問題
2	外部性と市場の失敗
3	共有資源の利用と管理
4	公共財とフリーライダー
5	直接規制と市場メカニズム
6	環境税と補助金
7	直接交渉による解決
8	排出量取引
9	費用便益分析の方法
10	公共事業評価の実際
11	道路事業評価の実際
12	橋梁事業評価の実際
13	ダム事業評価の実際
14	CVMによる環境評価の実際 (1)
15	CVMによる環境評価の実際 (2)
16	CVMによる環境評価の実際 (3)

【履修上の注意事項】

【評価方法】

試験、課題（レポート）の提出、出席状況で総合的に評価を行う。

【テキスト】

特に指定しない。必要に応じて講義時に資料を配布する。

【参考文献】

「環境経済学をつかむ」 栗山浩一・馬奈木俊介著 有斐閣2009年

環境評価入門

担当教員 呉 錫畢

対象学年 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

沖縄はさんご礁を含めて美しい自然や、また沖縄独特な文化をもっている。このような環境は多くの観光客を呼び寄せ、沖縄経済にとって欠かせない要因ともなっている。しかし、近年、開発等によってさんご礁が破壊されたり、海も汚れる傾向が目立っている。その原因の一つにその財が市場を経ず、タダで使用され、つまり、環境の価値が正当に評価されていないことにある。本講義では、自然や文化の価値評価の手法について分かりやすく紹介し、自ら評価に参加し計測するところまで体験できるようにする。

【授業の展開計画】

- 1週目：環境の価値とは
- 2週目：環境コストと環境ベネフィット
- 3週目：環境政策における環境評価の位置づけ
- 4週目：環境評価の環境政策への適用
- 5週目：CVMの背景及び理論的な背景
- 6週目：CVM評価の基礎
- 7週目：CVM評価の事例
- 8週目：. 旅行費用法 (Travel Cost) の基礎
- 9週目：旅行費用法の事例
- 10週目：ヘドニック法の基礎
- 11週目：ヘドニック法の事例
- 12週目：環境評価の実習1
- 13週目：環境評価の実習2
- 14週目：発表及び討論1
- 15週目：発表及び討論2
- 16週目：環境価値評価の総括

【履修上の注意事項】

環境と経済に対して問題意識を持つこと。講義を聴いている人に迷惑をかけること。

【評価方法】

発表とレポート、出欠等を基準として評価する

【テキスト】

- ① 栗山浩一 (2000) 『環境評価と環境会計』, 日本評論社を中心にするが、作成した資料を配布。

【参考文献】

- ① 呉錫畢 (2002) 『慶良間諸島におけるさんご礁の生態系及び景観の価値評価』、亜熱帯総合研究所。
- ② 鷺田豊明・栗山浩一 (1998) 『環境評価ワークショップ』、築地書店。

環境文化論

担当教員 前田 一舟

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この授業は半期を通して、かつて自然との調和で沖縄の生活を営んできた環境文化を探り、世界・日本・沖縄の環境問題を題材に恒久的持続可能な生活のサイクルを考える。また、環境問題がどのように貨幣経済と関わり、沖縄経済にどんな戦略を生むことができるか、さらに貨幣価値と違った視点の付加価値を見出すことができるか、民俗学（文化人類学）の手法から沖縄の環境文化について理解することを目的とする。

【授業の展開計画】

この授業は講義により映像資料やレジュメ等をもって構成する。講義では、文化の翻訳者や経済の理解者に求められる自文化と異文化の基本的な考え、基礎的な知識を中心に、おおむね次に掲げる内容を題材に取り扱う。

週	授 業 の 内 容
1	講義概要説明及び「あなたが考える環境のイメージは？」
2	パーマカルチャーと沖縄の生活様式
3	まちづくりワークショップ
4	沖縄の村落（沖縄の原風景）
5	湧き水と生活
6	水田と干潟の浄化システム
7	古代の貝塚と現代のゴミ問題
8	沖縄の相互扶助と共同売店
9	沖縄の災害と民間伝承
10	象設計の沖縄的グランドデザイン
11	猫と沖縄の環境文化
12	沖縄のジュゴンと環境文化
13	ウルトラマンから学ぶ環境文化
14	学生が描く環境戦略（1）
15	学生が描く環境戦略（2）
16	テスト

【履修上の注意事項】

授業の進行状況によって、最新の報道からトピックの順番を変更する場合がある。

講義を受講する上での最低限のマナー（携帯電話・遅刻・居眠り・退出・私語）は、心得ておくこと。また、課題などの提出期限は厳守するものとし、締切日以降の提出は一切受け付けないので十分に留意すること。

【評価方法】

本学の学部履修規定第16条に基づき、100点を満点とし、80点以上を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可、60点未満を不可として評価を行なう。なお、採点の基準は、講義への出席に60点、レポート及び発表等40点とし、詳細は初回講義の冒頭で説明する。

【テキスト】

講義中ではテーマにまつわるレジュメや論文、資料等を配布する。また、ビデオやスライド等も活用して情報の提供を図る。

【参考文献】

適宜案内する。

環境法

担当教員 砂川 かおり

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

環境問題は公害から生活環境問題、さらに将来世代の持続可能な発展を求める地球規模の問題へ拡大しています。環境法とは、環境の質を社会的に望ましい状態にするための法システムの総称です。つまり、現在および将来の環境の質の状態に影響を与える関係主体の意思決定を社会的望ましい状態の実現に向けるためのアプローチに関する法、および、環境に関する紛争処理に関する法律です。

【授業の展開計画】

本講義では、環境法に係るこれまでの理論的蓄積やアプローチ、判例等を学びながら、環境法に関する諸課題について理解を深め、問題点の抽出、解決方法等について考え、分析できる能力を身に付けることを目的としています。

第1週	講義説明、環境法の学習にあたって
第2週	環境法の誕生と成長、プロセスとしての環境法
第3～4週	環境法政策の目標
第5～6週	環境法政策の基本的考え方（1）—環境責任のあり方
第7～8週	環境法政策の基本的考え方（2）—環境リスク管理のあり方
第9～10週	環境法政策の基本的考え方（3）—環境ガバナンスのあり方
第11～12週	環境民事訴訟
第13～14週	環境行政訴訟
第15週	裁判外の紛争処理

【履修上の注意事項】

【評価方法】

出席・演習課題・期末試験により評価します。

【テキスト】

北村喜宣（2009）『現代環境法の諸相』（財団法人 放送大学教育振興会）

【参考文献】

- ① 畠山武道・大塚直・北村喜宣（2007）『環境法入門』（日本経済新聞出版社）、② 大塚直（2010）『環境法第3版』（有斐閣）、③ 淡路剛久・大塚直・北村喜宣編『環境法判例百選 第2版（別冊ジュリスト No. 206）』（有斐閣）、その他 適宜案内する。

観光経済論

担当教員 上江洲 薫

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

観光経済学は、観光事象の経済的側面に関する理解や分析の為に経済学または経済学の分析道具を適用しようとする応用経済学の一分野である。本講義では観光客の行動や観光地開発などによる経済効果の現状を理解するとともに、観光による地域活性化の取り組みやその課題などについて考える。

【授業の展開計画】

1. 講義説明
2. 観光の現状と経済効果①：国内・国際観光の現状、観光の経済効果、内発的発展としての観光
3. 観光の現状と経済効果②：経済効果の特徴、乗数効果
4. 観光商品の特徴と需要関係：観光商品の概念・特徴・構成要素、観光需要の法則と弾力性
5. 観光価格：観光価格の概要・決定メカニズム・設定目標、観光商品の価格戦略
6. 観光投資①：観光投資の概要・投資基準、観光費用の分析、観光投資リスクと投資決定
7. 観光投資②：観光投資案件の評価法、討論「外資系の投資は必要か」
8. 観光産業・旅行業界①：旅行商品、旅行会社の特徴
9. 観光産業・旅行業界②：旅行会社の動向・課題・今後
10. 観光産業・宿泊業①：宿泊業関連の法整備、ホテルの分類・経営形態・近年の動向
11. 観光産業・宿泊業②：旅館の種類と課題、温泉地の現状と新たな取り組み
12. 着地型観光：事業主体、住民の役割、取り組み事例
13. 観光課税：種類と特徴、導入理由、討論「観光税の導入は必要か」
14. 観光と自然環境①：エコツアーの効果と影響、影響の削減方法、観光産業の環境保全
15. 観光と自然環境②：業界の自己規制、指揮統制対市場ベースの改善策、環境収容能力
16. 試験

【履修上の注意事項】

本講義は観光地の紹介や楽しみ方を説明しないため、そのことを理解した上で受講して下さい。観光産業や地域振興などに興味がある学生を広く歓迎する。途中退席や私語を繰り返す受講生は大きな減点とする。初回から出席を取る。休講した場合、巡検（野外実習）を行うことがある。

【評価方法】

成績評価は出席（30点）や試験（40点）、講義時の作業物の提出や講義内容の感想および講義への参加姿勢（30点）で判断する。任意のレポートを提出や講義中に教員の質問に答えた場合は加点する。

【テキスト】

特に指定はない。適宜レジュメを配布する。

【参考文献】

ジェームズ・マック（2005）『観光経済学入門』日本評論社。角本伸晃（2011）『観光による地域活性化の経済分析』成文堂。中崎 茂（2002）『観光の経済学入門－観光・環境・交通と経済の関わり』古今書院。

観光情報論

担当教員 根路銘 もえ子

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義は、観光と情報の関係を学習することによって、観光情報について理解することを目的とする。具体的には、観光情報メディアとしてのインターネット、観光情報収集システム、観光情報提供システムについて学習することによって、今後、観光情報をどのように収集し、提供すれば良いかを考える。仮登録者が登録上限数を上回った場合、「初回講義時」に抽選を行うため、登録希望者は必ず初回講義に出席すること。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義ガイダンス・観光情報とは (1)
2	観光情報とは (2)
3	観光空間情報とは (1)
4	観光空間情報とは (2)
5	観光空間情報とは (3)
6	観光情報とインターネット
7	インターネットによる情報収集
8	観光情報提供方法 (1)
9	観光情報提供方法 (2)
10	旅行会社の取り組み
11	情報技術の活用事例 (1)
12	情報技術の活用事例 (2)
13	情報技術の活用事例 (3)
14	これからの情報技術活用 (1)
15	これからの情報技術活用 (2)
16	期末試験

【履修上の注意事項】

仮登録者が登録上限数を上回った場合、「初回講義時」に抽選を行う。仮登録人数に応じて、学年毎に登録上限数を同割合で設定し抽選する。

【評価方法】

出席状況、レポート、試験を総合的に評価する。

【テキスト】

講義中にレジメを配布する。

【参考文献】

観光学辞典，長谷政弘編著，同文館出版，1997．現代観光学キーワード事典，前田勇編，学文社，1998．観光学入門，岡本伸之編，有斐閣アルマ，2001．Google Maps Hacks，ギブソン リッチ，アール スカイラー著，オーム社，2007．ARのすべて，日経コミュニケーション編，日経BP，2009．他講義時に紹介する。

外書講読 I

担当教員 島袋 栄一

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

環境問題に関する英文の読解を通して、環境政策に関する基本的な用語の理解を深める。外書講読 I では、毎回受講生全員がテキストを音読し、和訳していきます。

【授業の展開計画】

Week 1 講義内容の説明及び確認テスト
Week 2 ～ 7 Topics for Global Citizenship
Week 8 中間試験
Week 9 ～ 14 Topics for Global Citizenship
Week 15 期末試験

【履修上の注意事項】

最初の週にテストを行うので、英和辞典を持参すること。

【評価方法】

出席状況と試験の結果をあわせて評価します。

【テキスト】

David Peaty. Topics for Global Citizenship (金星堂 2005)

【参考文献】

英和辞典

外書講読Ⅱ

担当教員 砂川 かおり

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

環境問題に関する英文の読解を通して、環境政策に関する基本的な用語の理解を深める。
レイチェル・カーソンが『沈黙の春』を書き上げるまでの経緯について書かれたテキストを読解し、その内容について各自が訳出していく。

【授業の展開計画】

Week 1	講義内容の説明
Week 2～9	Beyond "Silent Spring"
Week 10	中間試験
Week 11～15	環境問題等に関する英文
Week 16	期末試験

【履修上の注意事項】

英和辞典必携

【評価方法】

出席状況、発表と試験の結果をあわせて評価します。

【テキスト】

- ①安藤富雄 & Michelle Potter 『Beyond "Silent Spring"』（三友社出版、1997）
- ②その他（講義中に案内します）

【参考文献】

適宜案内します。

外書講読Ⅱ

担当教員 島袋 栄一

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

環境問題に関する英文の読解を通して、環境政策に関する基本的な用語の理解を深める。
レイチェル・カーソンが『沈黙の春』を書き上げるまでの経緯について書かれたテキストなどを読解しその内容について各自が訳出していく。

【授業の展開計画】

Week 1 講義内容の説明
Week 2～9 Beyond "Silent Spring"
Week 10 中間試験
Week 11～14 環境問題等に関する英文
Week 15 期末試験

【履修上の注意事項】

英和辞典必携

【評価方法】

出席状況と試験の結果をあわせて評価します。

【テキスト】

- ①安藤富雄、Michelle Potter. Beyond "Silent Spring" (三友社出版 1997)
- ②その他 (講義中に案内します)

【参考文献】

随時案内します。

基礎演習

担当教員 山川（矢敷） 彩子

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

基礎演習は、新入生と教員がコミュニケーションを深める場であり、講義には次のねらいがある。一年生が大学生としての必要なスキル（情報収集能力・読解力・文章作成能力・プレゼンテーション能力）を養うことである。最終的には、自分の興味がある分野のレポートを作成し、レジメを作成した上、コンピュータプレゼンテーションをすることを旨とする。二年次以降の学生が登録を希望する場合は、事前に相談すること。

【授業の展開計画】

基本的に以下のスケジュールで実施するが適宜内容と順番は変更することがある。

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス・自己紹介等	17	ガイダンス・課題の配布
2	図書館オリエンテーション	18	グループワーク（日本の電力）
3	1年生向けキャリアガイダンス	19	グループワーク発表(1)
4	交流ゲーム	20	グループワーク発表(2)
5	グループワーク（沖縄の自然を知る）	21	フィールドワーク(牧港火力発電所)
6	グループワーク発表(1)	22	レポート作成(危険生物・外来生物)
7	グループワーク発表(2)	23	レポート作成
8	フィールドワーク(宜野湾市立博物館)	24	レジメ作成
9	フィールドワーク(宜野湾市内)	25	パワーポイント作成(1)
10	フィールドワークレポート提出	26	パワーポイント作成(2)
11	レジメ作成(宜野湾市に関する調べ学習)	27	プレゼンテーションと質疑応答(1)
12	レジメ作成	28	プレゼンテーションと質疑応答(2)
13	レジメ発表(1)	29	プレゼンテーションと質疑応答(3)
14	レジメ発表(2)	30	卒業研究発表会の参加とレポート提出
15	レジメ発表(3)	31	1年生向けキャリアガイダンス
16	予備日		

【履修上の注意事項】

欠席する場合には、事前に必ず連絡をすること。メールによる連絡を受け付ける。
二年次以降の学生が登録を希望する場合は、事前に相談すること。

【評価方法】

単位取得には、3分の2以上の出席、課題（レポート、レジメ）の提出、およびプレゼンテーションの実施が必須である。評価は、ゼミにおける発言の内容やレポート、プレゼンテーションの内容により総合的に評価する。

【テキスト】

テキストは指定しない。必要に応じて資料を配布する。

【参考文献】

必要に応じて紹介する。

基礎演習

担当教員 -上江洲 律子

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

学生間および教員とのコミュニケーションの場を提供し、相互の理解を深めながら、大学生にとって必要な5つの力「読む力」「聞く力」「考える力」「書く力」「話す力」を身につけることを目標とします。

【授業の展開計画】

前期

新聞や雑誌のコラムなどの「書かれた言葉」やインタビューなどの「話された言葉」のポイントをまとめることから始め、指定されたテーマに従ったレポート作成を行いながら、書くプレゼンテーションの能力を高めます。

後期

学生の方々は、それぞれの興味を生かしたテーマ設定に従い、情報を収集し、分析し、まとめ、配付用の資料を作成し、実際に口頭での発表を行うことで、話すプレゼンテーションの力を身につけます。

【履修上の注意事項】

上に挙げた5つの力は、社会を生き抜く力でもあります。大学時代にその力を培えるように、学生の方々が、各自積極的に授業に参加することを要望します。

【評価方法】

出席および授業への参加姿勢（45%）、レポートおよび口頭発表の評価（55%）で評価します。

【テキスト】

授業内で必要に応じてプリントを配付します。

【参考文献】

・学習技術研究会編『知へのステップ—大学生からのスタディ・スキルズ—』第3版、くろしお出版、2010年
・小林康夫・船曳建夫編『知の技法—東京大学教養学部「基礎演習」テキスト—』、東京大学出版会、1994年
また、授業内で必要に応じて紹介します。

基礎演習

担当教員 砂川 かおり

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考 前半担当教員 永田（島袋）伊津子 ， 後半担当教員 砂川かおり

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

基礎演習

担当教員 永田（島袋） 伊津子

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

論文やレポート、レジユメの書き方を学ぶ。
プレゼンテーション能力を高める。

【授業の展開計画】

前期は、与えられた文章についてWordを使ってレジユメを作成し、報告する。
後期は、与えられたテーマについて小論文を作成し、報告する。

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス	17	小論文作成
2	レジユメの書き方	18	報告
3	レジユメの書き方	19	小論文作成
4	レジユメの書き方	20	報告
5	資料収集・リサーチ	21	小論文作成
6	資料収集・リサーチ	22	報告
7	資料作成	23	小論文作成
8	資料作成	24	報告
9	資料作成	25	小論文作成
10	報告・ディスカッション	26	報告
11	報告・ディスカッション	27	小論文作成
12	報告・ディスカッション	28	報告
13	報告・ディスカッション	29	小論文作成
14	報告・ディスカッション	30	報告
15	報告・ディスカッション	31	
16	小論文の書き方		

【履修上の注意事項】

特になし。

【評価方法】

2/3以上の出席、報告・レポート提出を単位取得の最低条件とする。

【テキスト】

特になし。

【参考文献】

適宜指示する。

基礎演習

担当教員 新垣 武

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

パソコン利用について基本的な事項を学ぶ。また、学生間及び教員とのコミュニケーションの場を提供し、相互の理解を深めるとともに、基本的な読解力、情報収集能力、分析力、取りまとめ力、及び基本的なプレゼンテーションの能力をつける。

【授業の展開計画】

講義の最初に2週間程度はパソコンの基礎（主としてメール、ワープロ、プレゼンテーション用ソフトの使い方等）を学ぶ、

次に受講生は、各自で、興味のあるジャンル（小説を除く）の本を読み、要旨を作成する。要旨は印刷し、クラスの全員に配布する資料（A4サイズ2枚程度）として準備しておく。それを、発表の時（講義中）に配布し、10-15分間の制限時間内で、読んだ本の内容や感想・意見などについて発表する。発表者以外の参加者は発表内容についての感想を10行程度にまとめて、メールで担当教師宛に送信する。

その他に環境に関するキーワード等について各自で調べて発表する。また、典型7公害や地球規模での環境問題についてグループで調べて発表する。

【履修上の注意事項】

【評価方法】

出席状況と発表内容にもとづき行う。

【テキスト】

テキストは特に指定しない

【参考文献】

参考文献は適宜紹介する。また、参考資料は適宜配布する。

基礎演習

担当教員 前泊 博盛

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

経済を学ぶための基礎演習です。ブックレット「もっと知りたい！本当の沖縄」をテキストに、私たちが住んでいる沖縄の歴史、文化、地理、そして経済環境、基地経済、基地問題などを概観します。その上で、各ゼミ生の関心を基に調査研究テーマを選定し、フィールドワークも交えながら調査研究の手法を学びます。

【授業の展開計画】

【前期】

- 1：演習の進め方
- 2：個別テーマの選定、グループ分け
- 3：テーマ研究と報告①
- 4：テーマ研究と報告②
- 5：テーマ研究と報告③
- 6：テーマ研究と報告④
- 7：テーマ研究と報告⑤
- 8：テーマ研究と報告⑥
- 9：テーマ研究と報告⑦
- 10：ディベート研究（ディベートの基本）
- 11：ディベート研究①
- 12：ディベート研究②
- 13：ディベート研究③
- 14：ディベート研究④
- 15：前期総括
- 16：レポート提出

【後期】

- 1：演習の進め方
- 2：個別テーマの選定、グループ分け
- 3：テーマ研究と報告①
- 4：テーマ研究と報告②
- 5：テーマ研究と報告③
- 6：テーマ研究と報告④
- 7：テーマ研究と報告⑤
- 8：テーマ研究と報告⑥
- 9：テーマ研究と報告⑦
- 10：ディベート研究（ディベートの基本）
- 11：ディベート研究①
- 12：ディベート研究②
- 13：ディベート研究③
- 14：ディベート研究④
- 15：後期総括
- 16：レポート提出

【履修上の注意事項】

毎日、新聞を読むこと。経済の基本書を熟読すること。

【評価方法】

課題（レポート）の提出、出席状況で総合的に評価を行う。

【テキスト】

（前期）岩波ブックレット『もっと知りたい！本当の沖縄』（前泊博盛著、岩波書店）

（後期）『検証 沖縄問題－復帰後30年の現状と展望』（百瀬恵夫、前泊博盛著、東洋経済新報社）

【参考文献】

（前期）検証 沖縄問題／百瀬恵夫・前泊博盛著／東洋経済新報社

（後期）沖縄振興開発計画（沖縄開発庁）、「沖縄振興計画」（内閣府）など

基礎演習

担当教員 上江洲 薫

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

学生間及び教員とのコミュニケーションの場を提供し、相互の理解を深めるとともに、文献や資料などの基本的な読解力、情報収集能力、分析力、読図力、統括力および現場の見る目、基本的なプレゼンテーションやの能力をつける。

【授業の展開計画】

前期は、①受講生の相互理解を図るため、受講生間での聞き取り調査、②レジュメの書き方、③レポートの作成方法、④環境・地域経済に関する書籍の一部分をグループで要約し、報告・ディスカッションを行う。後期は、①受講生が各自で、興味のあるジャンル（小説を除く）の本を読み、その内容を報告・ディスカッションを行う。②地図の読み方、また、読図力を活かして、巡検（野外実習）を行い、地域性および地域資源の発見を試みる。③「環境政策」か「地域経済政策」のいずれかをテーマにして、政策提言をグループで行う。

- | | |
|------------------------|----------------------------|
| 1 前期ガイダンス・学内案内等 | 17 後期ガイダンス |
| 2 聞き取り調査①項目作成 | 18 書籍の報告・ディスカッション |
| 3 聞き取り調査②調査実施・レジュメの書き方 | 19 書籍の報告・ディスカッション |
| 4 パソコンの基本操作① | 20 書籍の報告・ディスカッション |
| 5 図書館ガイダンス | 21 書籍の報告・ディスカッション |
| 6 聞き取り調査③報告① | 22 地形図の読図 |
| 7 聞き取り調査④報告② | 23 レポートの作成方法（野外調査版） |
| 8 レポートの作成方法、書籍報告の説明 | 24 巡検（宜野湾市内） |
| 9 書籍の報告・ディスカッション①作成 | 25 パソコンの基本操作（Power Point等） |
| 10 書籍の報告・ディスカッション②作成 | 26 グループごとの資料作成① |
| 11 書籍の報告・ディスカッション④報告 | 27 グループごとの資料作成② |
| 12 書籍の報告・ディスカッション⑤報告 | 28 政策提言発表・ディスカッション① |
| 13 書籍の報告・ディスカッション⑥報告 | 29 政策提言発表・ディスカッション② |
| 14 書籍報告のレポート作成① | 30 政策提言発表・ディスカッション③ |
| 15 書籍報告のレポート作成② | 31 就職関連対人セミナー |
| 16 まとめ | 32 まとめ |

【履修上の注意事項】

巡検では4・5校時で連続講義になることある。初回のガイダンスには発表の順番を決定するため必ず出席して下さい。

【評価方法】

成績評価は出席・講義への参加姿勢(30点)やレポート・発表(40点)、作業物の提出(30点)で判断する。

【テキスト】

特に指定しない。参考資料は適時配布する。

【参考文献】

伊藤義之(2005)『はじめてのレポート』, 嵯峨野書院。学習技術研究会編(2002)『知へのステッパー大学生からのスタディ・スキルズ』, くろしお出版

キャリアデザイン論

担当教員 宮城 和宏

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

様々な分野で活躍している先輩や経営者などにゲストとして来てもらい、話を聞きながらディスカッションを行う。就職意欲を高めることが本講義の目的である。

【授業の展開計画】

毎回ゲストを呼ぶ予定

【履修上の注意事項】

今後、講義内容については、大学ホームページのシラバスに掲載するので、履修を希望する人はそこで確認して欲しい。

【評価方法】

出席および試験状況を総合的に勘案して評価する。

【テキスト】

○必要に応じて講義中に指示する。

【参考文献】

近代沖縄経済史

担当教員 前泊 博盛

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

琉球王朝時代から明治・大正・昭和初期（戦前）までの沖縄経済史を概観します。蔡温による社会資本整備、琉球王朝の財務、貿易政策、農業政策、「万国津梁」の中身、南蛮人と琉球人、明治政府の下での沖縄振興計画、移民政策の背景、世界経済と沖縄を総括します。適宜、学外ゲストを招きます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義の進め方
2	沖縄経済史の特徴－後進性、零細性、従属性
3	近世沖縄の経済構造
4	首里王府の財政
5	旧慣温存下の県経済の動向
6	旧慣制度下の農村経済
7	商品経済の進展と「資本主義」生産様式の形成
8	県経済の近代化－「戦後経営」と沖縄
9	土地整理事業
10	砂糖経済
11	農林水産業の近代化
12	商工業の発展
13	第一次世界大戦と沖縄経済
14	「そてつ地獄」と昭和恐慌
15	沖縄振興計画と戦時統制経済
16	前期試験

【履修上の注意事項】

出席を重視します。筆力と質問力を高めるために、毎回、レポート、感想、質問を提出していただきます。

【評価方法】

毎回感想と質問を提出

【テキスト】

テキストは指定せず、毎回プリントを配り、それにそって講義する。

【参考文献】

その都度、紹介する。

金融論 I

担当教員 永田（島袋） 伊津子

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

金融の基礎的な知識を定着させることをねらいとする。金融論の初歩的な内容から学び、初心者にもわかりやすく解説するので、経済学の基礎科目を受講していない者でも理解できる内容である。将来、金融関係の職業を目指すものに受講を勧める。また、後期の「金融論Ⅱ」とセットで履修することでより理解が深まるだろう。教科書は指定しないが、金融論の教科書として出版されているものならば講義内容と大きくずれることはないので、各自読みやすいものを選び、復習することが望ましい。評価はほぼ毎回講義の最後に行う小テストと期末試験による。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	金融とは何か
3	企業の金融行動
4	家計の金融行動
5	政府の金融行動
6	金融機関
7	金融市場
8	わが国の金融制度（1）
9	わが国の金融制度（2）
10	金融のミクロ理論（1）
11	金融のミクロ理論（2）
12	金融政策（1）
13	金融政策（2）
14	入門ファイナンス（1）
15	入門ファイナンス（2）
16	期末試験

【履修上の注意事項】

- ・講義内容は変更することがあります。
- ・後期開講の「金融論Ⅱ」は「金融論Ⅰ」の知識を前提として進めます。
- ・「国際金融論Ⅰ・Ⅱ」、「ファイナンシャルプランニング」、「証券市場論Ⅰ・Ⅱ」を併せて履修することをおすすめします。

【評価方法】

学期末試験（自筆ノートのみ持込可）、小テスト

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

- 「入門金融」吉野直行・高月昭年（編著）有斐閣
「エコノミクス入門金融」池尾和人（編著）ダイヤモンド社

金融論Ⅱ

担当教員 永田（島袋） 伊津子

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

金融の発展的・実的な知識を定着させることをねらいとする。前期の「金融論Ⅰ」で学んだ知識を前提として進める。ニュースや新聞記事で扱われる現実的な金融に関する話題の背景を理解し、経済学的視点から考察する練習を行う。具体的には、講義の最後に、講義内容に関連する新聞記事を読み、コメントを書くという形の小テストを行う。将来、金融関係の職業を目指す者に受講を勧める。評価は小テストと個人報告による。この講義をきっかけに、受講者が社会問題に対して興味を持ち、学問的知識を裏付けとして自分の考えを持つ人材に育てて欲しい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	企業の資本構成と企業価値 株主主体のガバナンス 銀行主体のガバナンス
3	金融市場の基本設備－証券取引所・法制度・規制監督・情報提供機関－
4	政策金融
5	新しい金融手法と家計の資産選択、情報化の進展と金融業
6	日本銀行と金融政策
7	保険の基礎知識
8	社会人になる前に知っておきたい金融知識（学外講師による講演）
9	報告会（一人5分×10人）
10	報告会（一人5分×10人）
11	報告会（一人5分×10人）
12	報告会（一人5分×10人）
13	報告会（一人5分×10人）
14	報告会（一人5分×10人）
15	報告会（一人5分×10人）
16	予備日

【履修上の注意事項】

- ・講義内容は変更することがあります。
- ・「金融論Ⅱ」は、前期開講の「金融論Ⅰ」の知識を前提として進めます。
- ・「国際金融論Ⅰ・Ⅱ」、「ファイナンシャルプランニング」、「証券市場論Ⅰ・Ⅱ」を併せて履修することをおすすめします。

【評価方法】

- 評価 小テスト30点+ 報告40点 + 発言30点 =計100点
- 小テスト 講義の最後にほぼ毎回行う。
- 報告 一人1回、講義に関連する新聞記事を各自で用意してその解説を行う。

【テキスト】

特に指定しない

【参考文献】

- 「入門金融」 吉野直行・高月昭年（編著）有斐閣
- 「エコノミクス入門金融論」 池尾和人（編著）ダイヤモンド社

経済学入門 I

担当教員 呉 錫畢

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

人々は、つねに経済活動を行う。これは動物とは異なる大きな特徴でもある。ところで、経済活動とは何か、簡単に言えばモノを買う、即ち消費、モノを売る、即ち生産して売買のことである。なぜ、このような経済活動を行うのか、お金なしでモノを手に入れることができない理由は？その理由に資源には限りがあり、また人間の欲望は無限であるので、制限する必要があるのだ。ここで、資源をいかに生産・配分し、人々に満足を与えることができるのか、つまり、本講義は経済学の最も基礎的な知識を身に付けることが目的である。

【授業の展開計画】

- 1週目：経済学とは何か 1
- 2週目：経済システムとは
- 3週目：資本主義と自由企業
- 4週目：需要とは何か
- 5週目：需要の法則
- 6週目：供給とは何か
- 7週目：供給と費用の役割
- 8週目：シグナルとしての価格
- 9週目：価格システム
- 10週目：競争と市場構造
- 11週目：市場の失敗と政府の役割
- 12週目：日本経済と国際経済
- 13週目：世界的資源需要
- 14週目：世界経済の課題
- 15週目：経済学とは何か 2
- 16週目：期末試験

【履修上の注意事項】

講義を聴いている人に迷惑をかけること。

【評価方法】

期末試験、レポート、出欠等を参照

【テキスト】

ゲーリーE.クレイトン、大和証券訳（2005）『アメリカの高校生が学ぶ経済学』、WAVE出版。

【参考文献】

東京大学赤門Economist（2005）『東大生が書いたやさしい経済の教科書』、インデックスコミュニケーションズ。

J.E.スティグリッツら（2005）『スティグリッツ入門経済学〈第3版〉』、東洋経済新報社。

経済学入門Ⅱ

担当教員 永田（島袋） 伊津子

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

入門的な経済学を学び、専門科目、応用科目をよりスムーズに理解するために、必要な基礎知識を定着させることをねらいとする。この講義を受講して、私たちの身近な問題が経済と深くつながり、皆さんの将来にも大きく影響することを理解して欲しい。また、経済学的な思考、視点を身に付け、自らの生活に活かしてもらいたい。本講義をより詳しく学びたい者に、2年次で専門科目「マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」を受講することを勧める。教科書は「アメリカの高校生が学ぶ経済学」ゲーリー・E・クレイトン（著）とする（各自購入）。グループ報告で使用する教科書は「日本はなぜ貧しい人が多いのか」原田泰（著）とする（図書館在架）。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	テキスト第7章
3	テキスト第8章
4	テキスト第9章
5	テキスト第10章
6	テキスト第11章
7	テキスト第12章
8	テキスト第13章
9	テキスト第14章
10	テキスト第15章
11	テキスト第16章
12	グループ報告（1）
13	グループ報告（2）
14	グループ報告（3）
15	グループ報告（4）
16	グループ報告（5）

【履修上の注意事項】

講義の時、テキストを持参すること。

【評価方法】

グループ報告とレポート、出欠状況を総合的に評価する。

【テキスト】

「アメリカの高校生が学ぶ経済学」ゲーリー・E・クレイトン（著）2008年、WAVE出版、2400円＋税

【参考文献】

適宜指導する。

経済数学 I

担当教員 根路銘 もえ子

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では、経済学で使われる数学を初歩の基本的課題から応用分野までを解説する。練習問題を解くことにより、経済学に必要な数学の知識を身につける。

「経済数学I」では、行列や行列式等の線形代数について学習する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義ガイダンス・行列とは
2	いろいろな行列
3	行列の計算法
4	逆行列
5	連立方程式の解法(1)
6	線形空間(1)
7	線形空間(2)
8	線形空間(3)
9	行列式
10	余因子展開
11	掃き出し法(1)
12	掃き出し法(2)
13	連立方程式の解法(2)
14	経済学への応用(1)
15	経済学への応用(2)
16	期末試験

【履修上の注意事項】

地域環境政策学科・1年次対象科目。講義は段階的に進めるので、講義内容を理解してもらうためにも出席を重視する。1年次の選択科目であるため1年次優先。空きがあれば、他年次の学生の登録も可能とする。

【評価方法】

出席状況、講義中の問題解答、試験を総合的に評価する。

【テキスト】

レジメを配布し、講義中に板書を行う。また、練習問題を配布する。

【参考文献】

「初歩からの経済数学（第2版）」，三土修平，日本評論社，1996。「経済数学」，藤田渉，勁草書房。他講義時に紹介する。

経済数学Ⅱ

担当教員 根路銘 もえ子

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では、経済学で使われる数学を初歩の基本的課題から応用分野までを解説する。練習問題を解くことにより、経済学に必要な数学の知識を身につける。

「経済数学Ⅱ」では、経済学で扱われる関数について学び、微分法の基礎を習得する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義ガイダンス・微分とは
2	いろいろな関数と逆関数
3	指数関数と対数関数
4	極限值
5	導関数
6	微分(1)
7	微分(2)
8	微分(3)
9	関数の増減
10	経済学への応用(1)
11	経済学への応用(2)
12	偏微分
13	高階偏導関数
14	全微分
15	条件付最大化問題
16	期末試験

【履修上の注意事項】

地域環境政策学科・1年次対象科目。講義は段階的に進めるので、講義内容を理解してもらうためにも出席を重視する。1年次の選択科目であるため1年次優先。空きがあれば、他年次の学生の登録も可能とする。

【評価方法】

出席状況、講義中の問題解答、試験を総合的に評価する。

【テキスト】

レジメを配布し、講義中に板書を行う。また、練習問題を配布する。

【参考文献】

「初歩からの経済数学（第2版）」，三土修平，日本評論社，1996。「経済数学」，藤田渉，勁草書房。他講義時に紹介する。

経済地理 I

担当教員 小川 護

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

現代日本および世界における産業経済のありかたに「地域」という視点から分析を加えそこに内在する地域的な構造と問題点の様態を把握するとともに、その形成過程に関与する諸要因の織りなす機構を明らかにしようというのが本講義の目標である。経済地理 I では、経済地理学の課題、方法、視角について概観したあと、日本および沖縄、そして世界の農業地域の形成と構造および農業立地論について考察していく予定である。適宜、関連資料の配付、ビデオ教材等の視聴覚教材も利用する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	経済地理学の課題・方法・視角(1)
2	経済地理学の課題・方法・視角(2)
3	日本の農業(1)
4	日本の農業(2)
5	沖縄の農業
6	世界の農業地域(1)
7	世界の農業地域(2)
8	世界の農業地域(3)
9	世界の農業地域(4)
10	農業立地論
11	世界の地域解発
12	日本の地域開発
13	農業と食糧問題
14	農業と環境問題
15	まとめ
16	テスト

【履修上の注意事項】

追試・再試は原則としておこなわない。試験は、配布プリント、自筆ノートのみ持ち込み可能で試験を行う。

【評価方法】

出席状況(授業回数の1/3以上出席)とレポートおよび試験結果で総合的に判断する。

【テキスト】

帝国書院『新詳高等地図』1575円、新詳 資料 地理の研究、B5判 344ページ 定価980円

【参考文献】

授業の中で適宜紹介する。

経済地理Ⅱ

担当教員 小川 護

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

現代日本および世界における産業経済のありかたに「地域」という視点から分析を加えそこに内在する地域的な構造と問題点の様態を把握するとともに、その形成過程に関与する諸要因の織りなす機構を明らかにしようというのが本講義の目標である。経済地理Ⅱでは、日本と世界の工業地域について学習する。とくに、工業の立地変動、についても講義する予定である。さらに、都市地理学、商業地理学についても触れて行きたいと思っている。適宜、関連資料の配付、ビデオ教材等の視聴覚教材も利用する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	工業の分類と統計
2	工業の発達と経済
3	わが国の工業地域(1)
4	わが国の工業地域(2)
5	わが国の工業地域(3)
6	世界の工業地域(1)
7	世界の工業地域(2)
8	世界の工業地域(3)
9	世界の工業地域(4)
10	都市の概念
11	小売業の立地と中心地
12	中枢管理機能の立地と都市システム
13	最近の経済地理の動向(1)
14	最近の経済地理の動向(2)
15	まとめ
16	テスト

【履修上の注意事項】

追試・再試は原則としておこなわない。

【評価方法】

出席状況(授業回数の1/3以上出席)とレポートおよびテスト(持ち込み可)で総合的に判断する。

【テキスト】

帝国書院『新詳高等地図』1575円、帝国書院『新詳地理の研究』980円

【参考文献】

授業の中で適宜紹介する。

計量経済学 I

担当教員 友知 政樹

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義の目的は、多変量解析法のひとつである回帰分析を基軸に計量経済学の基礎を学ぶことである。具体的には、計量経済学の理論を理解すると同時に、実際のデータをエクセルなどの統計ソフトを利用して統計処理し、その方法ならびに結果の解釈についての理解を深めいく。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	基本統計量とエクセル (1)
3	基本統計量とエクセル (2)
4	基本統計量とエクセル (3)
5	単回帰モデル (1)
6	単回帰モデル (2)
7	重回帰モデル (1)
8	重回帰モデル (2)
9	重回帰モデル (3)
10	回帰モデルの仮説検定 (1)
11	回帰モデルの仮説検定 (2)
12	ダミー変数 (1)
13	ダミー変数 (2)
14	総まとめ
15	最終試験
16	

【履修上の注意事項】

計量経済学 I・IIの両方を履修することが望ましい。

予め、環境統計学I・IIもしくは統計学I・IIを履修している方が望ましい。

予め、統計情報処理I・IIを履修している方が望ましい。

【評価方法】

・講義の評価は、出席状況、レポート、小テスト、最終試験などにより総合的に評価する。・出席回数が2/3に満たない者には単位を与えない。(公欠を除く)

【テキスト】

[例題で学ぶ] 初歩からの計量経済学、白砂堤津耶(著)、日本評論社(¥2,800+税)。

【参考文献】

・計量経済学、田中勝人(著)、岩波書店(¥2,100+税)。・計量経済学、山本拓(著)、新世社(¥3,300+税)。
・計量経済学、浅野哲・中村二郎(共著)、有斐閣(¥3,000+税)。

計量経済学Ⅱ

担当教員 友知 政樹

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義の目的は、多変量解析法のひとつである回帰分析を基軸に計量経済学の基礎を学ぶことである。具体的には、回帰分析における多重共線性や系列相関の問題の理解を深め、さらに連立方程式モデルや産業連関分析についても学ぶ。その際、実際のデータをエクセルなどの統計ソフトを利用しながら理解を深めていく。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	回帰モデルの復習 (1) 単回帰モデル
3	回帰モデルの復習 (2) 重回帰モデル
4	回帰モデルの復習 (3) ダミー変数
5	多重共線性 (1)
6	多重共線性 (2)
7	系列相関 (1)
8	系列相関 (2)
9	連立方程式モデル (1)
10	連立方程式モデル (2)
11	連立方程式モデル (3)
12	産業連関分析 (1)
13	産業連関分析 (2)
14	総まとめ
15	最終試験
16	

【履修上の注意事項】

計量経済学Ⅰ・Ⅱの両方を履修することが望ましい。

予め、環境統計学Ⅰ・Ⅱもしくは統計学Ⅰ・Ⅱを履修している方が望ましい。

予め、統計情報処理Ⅰ・Ⅱを履修している方が望ましい。

【評価方法】

- ・講義の評価は、出席状況、レポート、小テスト、最終試験などにより総合的に評価する。
- ・出席回数が2/3に満たない者には単位を与えない。(公欠を除く)

【テキスト】

[例題で学ぶ] 初歩からの計量経済学、白砂堤津耶(著)、日本評論社(¥2,800+税)。

【参考文献】

・計量経済学、田中勝人(著)、岩波書店(¥2,100+税)。 ・計量経済学、山本拓(著)、新世社(¥3,300+税)。
 ・計量経済学、浅野哲・中村二郎(共著)、有斐閣(¥3,000+税)。

現代沖縄経済史

担当教員 前泊 博盛

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

沖縄の戦後経済史を概説し、現状と課題、展望を学びます。戦後の沖縄経済は無通貨時代から貨幣経済への移行、配給から自由経済へ、復興政策から振興政策への政策転換など、沖縄戦で壊滅した社会・教育・産業インフラを再整備するところから始まり、米軍統治下で自由な経済発展を許されない管理・統制型経済による米軍主導型経済となった。基地依存、公共事業依存などの3K経済の源流から復帰後の沖縄振興策、新6K経済の胎動までを一気に振り返ります。適宜、学外ゲストを招き、実態経済について論議します。

【授業の展開計画】

【授業の展開計画】

- 1：講義の進め方
- 2：戦前沖縄経済の総括
- 3：沖縄戦と戦中・戦後経済
- 4：米軍統治と統制経済
- 5：戦後復興政策
- 6：米軍統治下の振興計画
- 7：さとうきびブームと糖業
- 8：復帰前の金融、財政、経済の総括
- 9：本土復帰時の沖縄経済
- 10：沖縄振興開発計画と産業政策
- 11：復帰特別措置による企業・産業振興
- 12：3K経済と沖縄振興策
- 13：新6K経済とポスト新振計
- 14：沖縄振興開発計画と沖縄振興政策
- 15：沖縄振興策の効果と課題
- 16：後期試験

【履修上の注意事項】

出席を重視します。筆力と質問力を高めるため、毎回、レポート、感想、質問を提出していただきます。

【評価方法】

毎回感想と質問を提出

【テキスト】

テキストは指定せず、毎回プリントを配り、それにそって講義する。

【参考文献】

その都度、紹介する。

交通経済論

担当教員 藤原 邦夫

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本科目では交通経済学の理論と政策について講義する。はじめに、交通の基礎的事項を、つぎに、理論的内容を取り上げる。理論的内容に関しては、授業時間数が少ないので、次の二つの項目にしばって講義する。その項目とは、ひとつは交通需要であり、もうひとつは交通部門に対する政府の規制とその緩和である。これらの項目を選んだ理由は、これらが今日の交通の問題やあり方を考える上で重要であるからである。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	交通の定義と交通に類似する用語の定義
3	交通手段の歴史と交通技術
4	交通形態の変遷
5	交通の機能と意義
6	交通経済学とは何か
7	交通サービスとは何か
8	交通需要の意味と性質
9	交通需要に影響を与える要因
10	交通需要の弾力性とその計測値
11	交通政策の効果
12	財の性質にもとづく財の分類と交通サービスの位置づけ
13	交通部門に対する政府の介入の経済学的根拠
14	交通部門に対する政府の介入の実際と規制緩和
15	交通部門に対する政府の介入の実際と規制緩和
16	テスト

【履修上の注意事項】

毎回出席をとる。欠席を最小限にすること。授業中の私語を慎むこと。

【評価方法】

テストにもとづいておこなう。

【テキスト】

テキストは使用しない。

【参考文献】

山内弘隆・竹内健蔵「交通経済学」有斐閣、藤井弥太郎・中条潮「現代交通政策」東京大学出版会、角本良平「新・交通論」白桃書房

交通と環境

担当教員 藤原 邦夫

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では、交通が関係する環境問題について論じる。はじめに、交通公害を取り上げる。ここでは、交通公害のなかで自動車交通によって生ずる大気汚染と騒音の問題に焦点を絞り、その実態を示し、解決の方向を探る。つぎに、地球環境問題を取り上げる。ここでは、この問題のなかで地球温暖化問題に絞る。そして、地球温暖化に関係があるとみなされている温室効果ガス、とくに二酸化炭素を取り上げ、交通と二酸化炭素排出量増加との関係を示し、その背景そして二酸化炭素排出量抑制の方向について考える。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	自動車交通が関係する環境問題
3	大気汚染の現状
4	道路交通騒音の現状
5	環境研究における経済学の役割
6	自動車交通の社会的費用
7	経済学の立場からの交通公害の抑制策
8	経済学の立場からの交通公害の抑制策
9	経済学以外の立場からの交通公害の抑制策
10	地球温暖化
11	地球温暖化と交通の関係
12	地球温暖化と交通の関係
13	交通部門の二酸化炭素排出量の推移 の背景
14	交通部門の二酸化炭素排出量の抑制策
15	交通部門の二酸化炭素排出量の抑制策
16	テスト

【履修上の注意事項】

毎回出席をとる。欠席を最小限にすること。授業中の私語を慎むこと。

【評価方法】

テストにもとづいておこなう。

【テキスト】

使用しない。毎回詳しいレジュメを配布する。

【参考文献】

Button, K., Transport, the Environment and Economic Policy, Edward Elgar

国際経済論 I

担当教員 当銘 学

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

国の経済活動の領域は拡大し、もはや一国では経済が成り立たない。国際金融制度の歴史的変遷を概観し、米国を軸とする新たな世界経済の枠組みである、「ドル本位制」＝「IMF体制」、から貿易システムである「GATT～WTO体制」、そして「ニクソン・ショック」を契機とする「変動相場制」、乱高下する「為替レート」、「金利」、「為替」の変動に伴う「資本移動」、「為替投機」等の国際経済のキーワードを軸に歴史的・総括的に整理し理解することで世界経済の課題を考察する。

【授業の展開計画】

テキストに沿って講義を進める。関連するビデオや経済誌等の記事も活用する。

週	授 業 の 内 容
1	Introduction
2	グローバル経済と日本
3	グローバル化と日本経済構造
4	世界経済の潮流
5	戦前(～1914年)の国際経済体制
6	戦中の国際経済動向
7	戦後(1945年～)の国際経済体制
8	中間テスト
9	為替レートと日本経済
10	外国為替市場と為替レート
11	為替投機
12	外国為替市場への介入
13	為替レートの決定と変動の理論
14	現在における多様な通貨制度
15	総括 16回目に期末テストを行います
16	

【履修上の注意事項】

時事経済に関心をもつこと。テスト解答にはテキスト購入し、精読することが要求される。

【評価方法】

1000点満点 出席点：600点、テスト400点(中間・期末、各200点満点)
テストと出席状況、授業参加態度により総合的に評価する。

【テキスト】

『ゼミナール国際経済入門』 伊藤元重著 (日本経済新聞社出版)。テキスト購入は必須。

【参考文献】

『世界経済入門』 西川 潤著 (岩波新書出版)、 『世界に格差をバラ撒いたグローバリズムを正す』 ジョセフEスティグリッツ著 (徳間書店出版)など

国際経済論Ⅱ

担当教員 当銘 学

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

加速する経済のグローバル化。国境を越えた多様な経済活動、すなわち貿易・国際投資・資金移動・技術移転・多国籍企業などの動きを通して、変動し続ける国際経済の動向を分析し、そして世界経済の潮流の中の日本経済の位置づけを試みる、グローバル化に伴う「国際収支」変動による「経常収支」問題から「マクロ政策」と「資本移動」の関係を分析し、「市場統合」「通商問題」「WTO協定」「直接投資」等の国際経済のキーワードを軸に総合的に整理し理解することで世界経済の課題を考察する。

【授業の展開計画】

テキストに沿って講義を進める。関連するビデオや経済誌等の記事も活用する。

週	授 業 の 内 容
1	Introductionと前期の復習
2	国際化するマクロ経済
3	国際収支とはなにか
4	国際マクロ経済学
5	拡大する国際金融取引
6	累積債務問題
7	中間テスト
8	貿易の基礎理論
9	通商問題の変貌
10	産業構造の調整問題
11	規模の経済性のもとでの貿易
12	WTO体制の機能と課題
13	拡大する直接投資
14	直接投資の理論とインパクト
15	総括 16回目に期末テストを行います
16	

【履修上の注意事項】

時事経済に関心をもち、テスト解答にはテキスト購入し、精読することが要求される。

【評価方法】

1000点満点 出席点：600点、テスト400点(中間・期末、各200点満点)
テストと出席状況、授業参加態度により総合的に評価する。

【テキスト】

『ゼミナール国際経済入門』 伊藤元重著 (日本経済新聞社出版)。

【参考文献】

『世界経済入門』 西川 潤著 (岩波新書出版)、 『世界に格差をバラ撒いたグローバリズムを正す』 ジョセフEスティグリッツ著 (徳間書店出版) など

産業と環境

担当教員 山川（矢敷） 彩子

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

沖縄県は四方を海に囲まれた海洋島嶼県であり、産業はサービス産業などの第3次産業とともに、農林水産業の第1次産業も盛んである。本講義では、産業の中でも特に水産業と環境に関して学んでいくこととする。具体的には、沖縄の海岸環境、沖縄の水産業の歴史、サンゴ礁漁業と環境への負荷などについて理解を深める。本講義は最終年次においても追試および再試験は実施しないので登録の際気をつけること。

【授業の展開計画】

講義では基本的に以下の内容を実施するが、講義の順番や内容は変更することがある。

週	授 業 の 内 容
1	講義ガイダンス
2	沖縄の海岸環境
3	沖縄の海岸開発 (1)
4	沖縄の海岸開発 (2)
5	沖縄のサンゴ礁漁業の歴史 (1) (貝類利用の歴史)
6	沖縄のサンゴ礁漁業の歴史 (2) (DVD鑑賞)
7	沖縄のサンゴ礁漁業の歴史 (3) (糸満売り～本土復帰)
8	沖縄の水産業 (1) (全般)
9	沖縄の水産業 (2) (獲る漁業)
10	沖縄の水産業 (3) (養殖漁業)
11	海外のサンゴ礁漁業と環境への負荷
12	学外講師による講義 (仮)
13	中間試験 (ペーパーテスト)
14	学生のレジメ発表 (1)
15	学生のレジメ発表 (2)
16	学生のレジメ発表 (3)

【履修上の注意事項】

登録調整期間の出席状況も評価に反映する。
 欠席理由に関わらず、3分の1以上の欠席は不可となる。
 出席で代筆が明らかとなった場合は不可となる。
 最終年次においても追試および再試験は実施しないので気をつけること。

【評価方法】

講義の際に毎回記入するフィードバックシート (意見、感想、質問) の内容、試験および発表の内容により総合的に評価する。3分の1以上の欠席、試験や発表を欠席した学生には単位を与えない。

【テキスト】

テキストは指定しない。必要に応じて資料を配布する。

【参考文献】

必要に応じて紹介する。

産業連関論の応用

担当教員 野崎 四郎

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

産業連関論の基礎」や「産業連関論の応用」では、産業連関表を用いてマクロ経済やミクロ経済のモデル分析を行う。例えば、エクセルを用いてプロ野球の経済効果や環境分析、消費税上昇の波及効果を分析する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	地域間産業連関表 (1)
2	地域間産業連関表 (2)
3	RAS法による新しい産業連関表の作り方
4	環境分析用産業連関計算 (1)
5	環境分析用産業連関計算 (2)
6	産業構造の変化の要因分析 (1)
7	産業構造の変化の要因分析 (2)
8	価格構造変化の要因分析 (1)
9	価格構造変化の要因分析 (2)
10	地域産業連関表による沖縄・北海道の観光収入の効果
11	地域産業連関表による沖縄の観光収入の効果
12	沖縄のプロ野球キャンプ効果
13	国際産業連関表・2002年サッカーワールドカップの経済効果
14	環境分析と産業連関分析 (1)
15	環境分析と産業連関分析 (2)
16	産業連関分析と予測

【履修上の注意事項】

【評価方法】

試験、課題（レポート）の提出、出席状況で総合的に評価を行う。

【テキスト】

「Excelでやさしく学ぶ産業連関分析」石村貞夫・劉晨・玉村千治 日本評論社2009年

【参考文献】

「産業連関分析入門」藤川清司著 日本評論社、「産業連関分析入門（新版）」宮沢健一編 日本経済新聞社

産業連関論の基礎

担当教員 野崎 四郎

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

産業連関論の基礎」や「産業連関論の応用」では、産業連関表を用いてマクロ経済やミクロ経済のモデル分析を行う。例えば、エクセルを用いてプロ野球の経済効果や環境分析、消費税上昇の波及効果を分析する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	産業連関分析の考え方
2	産業連関論の系譜 (1)
3	産業連関論の系譜 (2)
4	産業連関分析準備のために (行列式の話) (1)
5	産業連関分析準備のために (行列式の話) (2)
6	産業連関分析準備のために (エクセル) (1)
7	産業連関分析準備のために (エクセル) (2)
8	連立一次方程式の解放
9	産業連関表の見方・読み方・使い方
10	競争輸入型産業連関表と非競争輸出型産業連関表
11	レオンチェフ逆行列 (1)
12	レオンチェフ逆行列 (2)
13	レオンチェフ逆行列と波及効果の計算 (1)
14	レオンチェフ逆行列と波及効果の計算 (2)
15	最終需要と波及効果
16	雇用と付加価値波及効果

【履修上の注意事項】

【評価方法】

試験、課題（レポート）の提出、出席状況で総合的に評価を行う。

【テキスト】

「Excelでやさしく学ぶ産業連関分析」石村貞夫・劉晨・玉村千治 日本評論社2009年

【参考文献】

「産業連関分析入門」藤川清司著 日本評論社、「産業連関分析入門（新版）」宮沢健一編 日本経済新聞社

社会調査演習

担当教員 上江洲 薫

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

本授業の目的は、受講生が社会調査のすべての段階を経験することによって、社会調査の理論と方法を体得することである。具体的には、沖縄の環境問題と地域社会を主要テーマに、少人数の単位のグループごとに詳細調査テーマを決定し、学内の学生や学外の事業社や地域住民などを対象に、量的調査や質的調査を実施し、収集したデータを分析した後に報告書を作成する。なお、この報告書は公開する。

【授業の展開計画】

以下の順序にしたがって社会調査法の実習をおこなう。①調査テーマの決定（4月）、②調査テーマに関する現状と課題調査（5月）、③調査テーマに関する既存のデータ分析（6月）、④調査企画書（対象者・対象地域等）の作成（6月）、⑤調査票の作成とサンプリングの実施（7～8月）、⑥調査の実施（9～10月）、⑦調査データの集計と分析、PASWの使用法（11月）、⑧調査報告書の作成（12～2月）

【履修上の注意事項】

原則としてオール出席を求める。本科目の登録は、社会調査論Ⅰと社会調査論Ⅱの試験を受けており、ⅠとⅡのうち少なくとも一方の科目の単位を取得している学生に限る。

【評価方法】

成績評価は教室での発表内容（30点）と調査報告書の水準（40点）、出席および講義への参加姿勢（30点）にもとづいておこなう。

【テキスト】

テキストを使用しない。また、配布資料を使用（A4ファアイルを用意すること）。

【参考文献】

大谷信介他編著（2005）『社会調査へのアプローチ—論理と方法—』（第2版）ミネルヴァ書房。盛山和夫（2004）『社会調査法入門』有斐閣。佐藤郁哉『フィールドワーク』（新曜社）

社会調査論 I

担当教員 一住 直広

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

社会に対するさまざまな問題を調べ、明らかにしていく社会調査は、現代社会を読み解く中で必要な力となります。また実際、社会に出たとき、自らの仕事として向かい合うことも出てきます。本講義では、卒論及び研究時の社会調査のノウハウを学ぶだけではなく、実社会に出ても社会を読み解くノウハウとして、社会調査の意義と方法など一連の基本的事項を実例を交えながら学びます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	イントロダクション（本講義の目的・内容・スケジュールの紹介）
2	社会調査とは（あふれる社会調査、社会調査の意義、用途）
3	社会調査史（社会調査の変遷）
4	さまざまな社会調査法（社会調査の種類）
5	社会調査をやるにあたって（調査上の倫理、注意事項）
6	社会調査の全体像（調査設計から公表まで）
7	情報収集の方法（官公庁、図書館等の活用）
8	情報収集の方法（インターネットの活用）
9	具体的な事例に学ぶ（実際の調査例、量的調査と質的調査）
10	量的調査の実際（量的調査の目的・内容）
11	質的調査の実際（質的調査の目的・内容）
12	質的調査（聞き取り）
13	質的調査（参与観察）
14	質的調査（ドキュメント分析）
15	テスト（ふりかえりとまとめ）
16	

【履修上の注意事項】

私語、授業中の携帯電話は厳禁。講義を受講する上での最低限のマナーは、心得ておくこと。病気等やむをえない理由による欠席の場合は次の講義で申し出ること。

【評価方法】

レポート、テスト、受講態度、出席状況等を総合的に評価する。

【テキスト】

大谷信介、他編著、『社会調査へのアプローチ—論理と方法—』（第2版）、ミネルヴァ書房、2005年
講義では、その都度レジュメ・資料等を配布する。

【参考文献】

根本博司 他編著『初めて学ぶ人のための社会福祉調査法』中央法規2001年、ダレル・ハフ『統計でウソをつく方法—数式を使わない統計学入門—』、講談社（ブルーバックス）1979年、谷岡一郎『「社会調査」のウソ—リサーチ・リテラシーのすすめ—』文藝春秋（文春新書）2000年、好井裕明、『「あたりまえ」を疑う社会学—質的

社会調査論Ⅱ

担当教員 一住 直広

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

社会調査の基本的事項を踏まえた上で、より実践的なノウハウを習得するために、量的調査に重点をおいて、具体的に調査企画・設計、サンプリング、調査の実施、データの整理・集計・分析等を学びます。実際に、グループ毎にテーマを設定し、調査票を作成後、調査を実施し、調査結果を発表してもらいます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	イントロダクション（本講義の目的・内容・スケジュールの紹介）
2	社会について考える（テーマ設定のための情報収集）
3	概念の活用（定義の重要性、操作概念の活用）
4	仮説構成の方法（独立変数と従属変数）
5	調査の設計、企画（調査企画）
6	調査票の作成（質問文の作成とその注意点）
7	調査票の作成（調査票全体構成とその注意点）
8	調査票作成の実践（グループ学習）
9	サンプル数の決定法（算出法）と標本誤差
10	サンプリングの種類と方法（各種抽出法）
11	調査の実施方法（量的調査・調査票の配布および回収法等）
12	調査の実施方法（質的調査・調査対象者へのアプローチ等）
13	データの整理・集計の実際（コーディング・データクリーニング等）
14	データ分析、報告の方法（グループ学習）
15	グループ発表
16	

【履修上の注意事項】

私語、授業中の携帯電話は厳禁。講義を受講する上での最低限のマナーは、心得ておくこと。病気等やむをえない理由による欠席の場合は次の講義で申し出ること。

【評価方法】

レポート、テスト、受講態度、出席状況等を総合的に評価する。

【テキスト】

大谷信介、他編著、『社会調査へのアプローチ—論理と方法—』（第2版）、ミネルヴァ書房、2005年
講義では、その都度レジュメ・資料等を配布する

【参考文献】

根本博司、他編著、『初めて学ぶ人のための社会福祉調査法』、中央法規、2001年
ダレル・ハフ、『統計でウソをつく方法—数式を使わない統計学入門』、講談社（ブルーバックス）、1979年
谷岡一郎、『「社会調査」のウソ—リサーチ・リテラシーのすすめ—』文藝春秋（文春新書）、2000年

集落地理論 I

担当教員 濱里 正史

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

20世紀は都市化の世紀と言われるほど都市化が進行しており21世紀もこの傾向は続くと予測されている。したがって、都市について学ぶことは現代および未来の社会を学ぶことに通ずる。特に最近では環境問題が人類の現在と未来における最重要課題として浮上するなか、これに対処する実践の場としての集落・都市の在り方が問われている。本講義では、集落地理論のみならず人文・社会科学全般において重要な研究対象の1つである都市について地理学的視点を重視しながら特に「沖縄の都市と集落」及び「環境と都市」について学ぶことを目的とする

【授業の展開計画】

講義のテーマは大きく2つに分かれる。1つは「沖縄の都市と集落」である。具体的には、「沖縄コナベーション」、「沖縄における基地と都市形成」、「沖縄の都市開発と環境問題」などについて学んでいく。もう1つのテーマは「環境と都市」である。具体的には、「エネルギーと都市」、「自動車と都市」についてヨーロッパの事例を参考にしながら講義した後、環境先進国ドイツの「環境都市フライブルク」を事例に、環境対策の実践の場としての都市とそのまちづくりがどのようなものであるかを学んでいく。

回 内容

- 1 イン트로ダクション
- 2 沖縄コナベーション 1
- 3 沖縄コナベーション 2
- 4 沖縄における基地と都市形成 1
- 5 沖縄における基地と都市形成 2
- 6 沖縄における基地と都市形成 3
- 7 沖縄の都市開発と環境問題 1
- 8 沖縄の都市開発と環境問題 2
- 9 エネルギーと都市 1
- 10 エネルギーと都市 2
- 11 自動車と都市 1
- 12 自動車と都市 2
- 13 環境都市フライブルク 1
- 14 環境都市フライブルク 2
- 15 期末試験

【履修上の注意事項】

出席は取らないが、講義に出席しない限り試験は書けないことに注意すること

【評価方法】

試験およびレポートを総合的に評価する。

【テキスト】

授業は毎回配る配付資料を基に行う。

【参考文献】

テキストは特にないが参考文献については随時指示する。

集落地理論Ⅱ

担当教員 崎浜 靖

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

集落地理論Ⅱでは、集落の中でも「村落」の歴史地理に関する講義を行う予定である。とくに村落景観に関する講義については、絵図資料や地図資料の読解、空中写真を用いた分析方法、さらに、フィールドワークの方法に重点をおく。村落の社会経済的構造に関する講義については、これまでの沖縄村落研究の事例を、映像資料を用いて紹介し、地域史・民俗学の研究成果を盛り込んで講義を進める予定である。

【授業の展開計画】

- 1 村落地理学の研究史
- 2 村落と地図①－地形図の基礎－
- 3 村落と地図②－地形図の利用方法－
- 4 村落と地図③－空中写真の判読と利用方法－
- 5 村落と地図④－国土基本図と地籍図－
- 6 村落と地図⑤－古地図と絵図資料－
- 7 村落の景観①－地理学の景観概念と研究方法－
- 8 村落の景観②－沖縄村落の景観構造－
- 9 村落の景観③－景観研究の事例－
- 10 村落の景観④－景観調査の方法と実践－
- 11 村落の社会構造①－形態から生態へのアプローチ－
- 12 村落の社会構造②－沖縄村落の歴史地理－
- 13 村落の社会構造③－沖縄村落社会の過去と現実－
- 14 村落の社会構造④－村落社会調査の方法と実践－
- 15 沖縄村落における景観と社会の関係
- 16 期末試験

【履修上の注意事項】

地図帳を持参して講義に参加すること。課題提出と出席点を重視するので注意すること。

【評価方法】

期末試験と課題点、出席点により総合的に判断する。

【テキスト】

毎回、プリントを配布する。

【参考文献】

仲松弥秀著『神と村』 梟社
田里友哲著『論集 沖縄の集落研究』 離宇宙社

情報産業論

担当教員 根路銘 もえ子

対象学年 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義は、情報産業について学習することによって、情報に関する広い視野を養い、情報産業の将来を展望する能力を身に付けることを目的とする。具体的には、情報産業への発展過程をはじめ、コンピュータ産業の現状、コンテンツ産業、メディア産業、インターネットビジネス、移動体通信および情報ビジネスについて学ぶことにより、今後の情報産業の動向や情報産業の発展が現代社会にどのような変化をもたらすのかについて考察する。仮登録者が登録上限数を上回った場合、「初回講義時」に抽選を行うため、登録希望者は必ず初回講義に出席すること。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義ガイダンス・情報産業とは
2	産業の流れ
3	通信インフラと電話ビジネス(1)
4	通信インフラと電話ビジネス(2)
5	通信インフラと電話ビジネス(3)
6	コンピュータおよび家庭用IT機器(1)
7	コンピュータおよび家庭用IT機器(2)
8	ユビキタス・コンピューティング(1)
9	ユビキタス・コンピューティング(2)
10	電子商取引
11	金融サービス
12	Webコンテンツ(1)
13	Webコンテンツ(2)
14	著作権とセキュリティ(1)
15	著作権とセキュリティ(2)
16	期末試験

【履修上の注意事項】

仮登録者が登録上限数を上回った場合、「初回講義時」に抽選を行う。仮登録人数に応じて、学年毎に登録上限数を同割合で設定し、抽選する。

【評価方法】

出席状況、レポート、試験を総合的に評価する。

【テキスト】

講義中にレジメを配布する。

【参考文献】

参考文献は講義時に紹介する。

情報社会論

担当教員 根路銘 もえ子

対象学年 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義は、情報と社会の関係を学習することによって、情報社会について理解することを目的とする。特に、インターネットの仕組みや情報システムについて学習する。情報および情報化が果たしてきた役割を理解することによって、社会、生活、企業、経済などに与えている影響について考察する。仮登録者が登録上限数を上回った場合、「初回講義時」に抽選を行うため、登録希望者は必ず初回講義に出席すること。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義ガイダンス・情報社会とは
2	情報社会・情報と人間の関わり
3	コミュニケーションの概念
4	ユーザインターフェース
5	情報とネットワーク
6	情報ネットワークの通信プロトコル
7	情報ネットワークと管理
8	インターネットを支える仕組み
9	インターネット検索(1)
10	インターネット検索(2)
11	情報システム
12	社会基盤としての情報システム
13	情報社会におけるコミュニケーション(1)
14	情報社会におけるコミュニケーション(2)
15	情報科学技術の将来
16	期末試験

【履修上の注意事項】

仮登録者が登録上限数を上回った場合、「初回講義時」に抽選を行う。仮登録人数に応じて、学年毎に登録上限数を同割合で設定し抽選する。

【評価方法】

出席状況、レポート、試験を総合的に評価する。

【テキスト】

講義中にレジメを配布する。

【参考文献】

情報化白書（最新版）、情報通信白書（最新版）、IT社会のしくみ事典、谷口功著、メディア・テック出版、2006。情報と社会、川合慧（監修）、駒谷昇一（編著）、オーム社、2004。他講義時に紹介する。

情報処理概論

担当教員 松崎 大介

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では、情報処理技術と計算機の基礎的な演算方法について講義し、これらの基礎を築くことを目的とする。具体的には、まず情報処理の概念と計算機の構造、およびその動作原理について学んでもらいたい。さらに、ファイルシステムおよびデータベースシステムの動作を理解し、これらのシステム運用に関し講義を行う。

【授業の展開計画】

- 1 インTRODダクシヨン（登録と講義計画）
- 2 情報の概念
- 3 情報処理と計算機
- 4 半導体と演算
- 5 計算機の原理
- 6 中央演算装置とメモリー
- 7 オペレーティングシステム
- 8 ファイルシステム
- 9 通信技術とネットワーク
- 10 データベース I
- 11 データベース II
- 12 情報化とシステム開発
- 13 システムの運用管理 I
- 14 システムの運用管理 II
- 15 まとめ
- 16 期末考査

【履修上の注意事項】

【評価方法】

主に期末試験に基づいて評価する。出席・レポートは補助的な評価対象とする。

【テキスト】

第一回目の講義で指示する。

【参考文献】

相田洋, 1995, 電子立国日本の自叙伝 (NHKライブラリー)
浅井宗海, 1999, 新コンピューター概論 (実教出版)

情報リテラシー演習

担当教員 根路銘 もえ子

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

高度情報化社会の現在、情報機器を有用な道具として活用できる能力が求められており、大学においても情報リテラシーは必須となっている。本講義では、コンピュータの基本的な知識および情報リテラシーの習得を目的としている。具体的には、電子メールの使用方法、インターネットの活用、レポート・論文作成に必要なワープロソフトウェアの操作方法、および、データ分析に必要な表計算ソフトウェアの基本操作、画像データ処理を主に学習する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義ガイダンス・グループウェアの使い方・日本語入力の実習
2	ワープロソフトウェアの基本操作 (1)
3	ワープロソフトウェアの基本操作 (2)
4	ワープロソフトウェアの基本操作 (3)
5	インターネットによる情報検索・画像データ処理 (1)
6	画像データ処理 (2)
7	表計算ソフトウェアの基本操作 (1)
8	表計算ソフトウェアの基本操作 (2)
9	表計算ソフトウェアの基本操作 (3)
10	発表資料作成ソフトウェアの基本操作 (1)
11	発表資料作成ソフトウェアの基本操作 (2)
12	表計算ソフトウェアの応用 (1)
13	表計算ソフトウェアの応用 (2)
14	表計算ソフトウェアの応用 (3)
15	文書の統合
16	期末試験

【履修上の注意事項】

地域環境政策学科・1年次対象科目。講義は段階的に進めるため、講義内容を理解してもらうためにも出席を重視する。1年次の必修科目であるため1年次優先。空きがあれば、他年次の学生の登録も可能とする。

【評価方法】

出席状況、課題内容、試験により総合的に評価する。

【テキスト】

講義中にレジメを配布する。

【参考文献】

開講時に紹介する。

人口食糧論

担当教員 小川 護

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

世界の諸地域をみると、人口の急激に増加しているアジアやアフリカ、ラテンアメリカなどの発展途上国の地域、逆に人口増加の停滞あるいは現象がみられるわが国をはじめアングロアメリカ、ヨーロッパなどの地域があげられる。同時に発展途上国では食糧問題が発生し、先進国では少子高齢化の問題などを抱えている。この授業では、これらの諸問題について考えていきたい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	この授業の開始にあたって(オリエンテーション)
2	人の分布と変化を考える
3	人口の動体と構成
4	人口の構成
5	発展途上国の人口問題
6	先進地域の人口問題
7	日本の人口問題
8	食糧問題と農産物貿易問題
9	土地制度と農地改革
10	世界の主要農産物-1-
11	世界の主要農産物-2-
12	日本の農業
13	いのちの食べ方 (映像資料)
14	キングコーン (映像資料)
15	これからの人口と食糧問題を考える (まとめ)
16	テスト

【履修上の注意事項】

出席を重視するので休すまないこと。当授業の内容は中学社会・高校地歴科・公民科の内容との関連で掘り下げた中身となっているので、とくに教員志望の受講者を希望する。

【評価方法】

出席状況と；レポート、テストで総合的に判断する。

【テキスト】

帝国書院『新詳高等地図』 1,575円、『新詳資料地理の研究』980円
 毎回プリントを配布する。

【参考文献】

授業の中で適宜紹介する

政策金融論

担当教員 照屋 健

対象学年 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本科目では、政府が特定の政策課題を達成するために、金融手段を通じて民間部門を誘導する活動である政策金融について講義する。はじめに政府の金融活動としての財政投融资の基礎的事項とその変遷について述べる。次に沖縄振興の政策課題に対応した政策金融の役割を踏まえ、その実務的対応を見ていく。最後に新たな沖縄振興施策と政策金融が果たすべき今後の課題について考える。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	市場経済と政府の役割
3	財政投融资の仕組みと特徴
4	財政投融资の規模の変遷と財投改革
5	沖縄の実体経済
6	沖縄の金融構造
7	沖縄公庫の設立経緯と総合政策金融機能
8	沖縄振興政策の課題の変化と公庫の対応
9	観光産業振興と公庫
10	産業・社会資本整備と公庫
11	ベンチャー振興と事業再生
12	政策金融評価の内容
13	政策金融改革と沖縄の課題
14	期末試験
15	
16	

【履修上の注意事項】

特になし

【評価方法】

出席状況、試験成績、学生の問題意識により総合的に評価を行う。

【テキスト】

テキストは使用せず、講師作成の各回講義ノートによる。

【参考文献】

参考文献は必要に応じ講義時に指定する。

生態学概論

担当教員 仲田 栄二

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

生態学は、現象をばらばらにほぐして、その一つ一つについて研究するというのではなく、あくまでも現象と現象とのあいだの関係をとらえようとする学問である。

本講義では、5から15までのテーマについては、主体-環境系の立場から論じる。受講生には生態学的思考、つまり正しい関係づけの上にたつ思考法を学んで欲しい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義の全体像について
2	生態学とは何か
3	五感と生態学
4	生態学と気候帯
5	海岸の生態学(1)
6	海岸の生態学(2)
7	里海の生態学
8	里山の生態学
9	湿地の生態学
10	放牧地の生態学
11	河畔林の生態学
12	農耕地の生態学
13	都市の生態学
14	照葉樹林の生態学(1)
15	照葉樹林の生態学(2)
16	期末試験

【履修上の注意事項】

追試・再試は行わない。

【評価方法】

評価はレポートまたは期末試験で判断する。

【テキスト】

指定しない。

【参考文献】

講義のなかで随時紹介する。

地域開発論

担当教員 高嶺 晃

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

地域経済学 I

担当教員 前泊 博盛

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

講義のキーワードは「グローバル」。経済のグローバル化の中で、地域経済がどのような影響を受け、生き残りや地域の成長、発展のために、どのような対策、対応策、政策を展開しているかを分析します。地域経済学の基本的な概念や研究手法を学びます。随時、地域としての「沖縄」にも論及しながら、「地域」についての具体的な事例研究を行います。

【授業の展開計画】

- 【1】 講義の進め方
- 【2】 地域経済学の目的と方法
- 【3】 地域経済学の概念
- 【4】 地域経済学の課題
- 【5】 日本の地域構造
- 【6】 産業構造の変化と地域構造
- 【7】 人口動態と地域構造
- 【8】 情報化・国際化と東京一極集中
- 【9】 地域経済と所得形成
- 【10】 地域所得の決定
- 【11】 地域成長の経済分析
- 【12】 需要主導型モデルと供給主導型モデル
- 【13】 地域間交易の理論
- 【14】 地域間格差と人口移動（日本の地域間格差）
- 【15】 経済発展と地域間格差
- 【16】 前期テスト

【履修上の注意事項】

出席を重視します。

【評価方法】

出席重視、毎回講義に対する「質問と感想」を提出（出席票に代える）
「質問と感想」＝需要と供給、双方向の講義を展開、筆力向上を目指すためのものです。

【テキスト】

岡田知弘・川瀬光義ほか著「国際化時代の地域経済学」（有斐閣アルマ）
参考文献：山田浩之・徳岡一幸編「地域経済学入門」（有斐閣コンパクト）ほか

【参考文献】

地域経済学 I

担当教員 野崎 四郎

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

地域経済学（Ⅰ、Ⅱ）では、空間の存在が資源配分に与える影響を明らかにして、経済主体の空間的配置と空間相互の関係について探求することを目的とする。また、現実の地域経済が抱える様々な問題に対して解決策を検討する。この講義と並行してマクロ経済学（Ⅰ、Ⅱ）や産業連関論の基礎と応用を受講する事が望ましい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	地域経済学の課題
2	日本の地域構造
3	地域所得の決定
4	地域経済の開放体系モデル
5	産業連関分析（1）
6	産業連関分析（2）
7	産業連関分析（3）
8	地域成長の経済モデル（1）
9	地域成長の経済モデル（2）
10	地域成長の経済モデル（3）
11	地域間交易理論（1）
12	地域間交易理論（2）
13	地域間交易理論（3）
14	地域間格差と人口移動（1）
15	地域間格差と人口移動（2）
16	地域間格差と人口移動（3）

【履修上の注意事項】

【評価方法】

試験、課題レポートの提出、出席状況で総合的に評価を行う。試験は中間、最終を実施する。

【テキスト】

地域経済学入門 山田浩之著 有斐閣、必要に応じて資料配布。

【参考文献】

「都市と地域の経済学」（新版） 黒田達郎・田淵隆俊・中村良平 有斐閣2008年、「地域経済学と地域政策」
H.アームストロング・J.テイラー（改訂版）流通経済大学出版社2005年

地域経済学Ⅱ

担当教員 前泊 博盛

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

講義のキーワードは「グローバル」。経済のグローバル化の中で、地域経済がどのような影響を受け、生き残りや地域の成長、発展のために、どのような対策、対応策、政策を展開しているかを分析することで、自らが住んでいる地域（沖縄）を深く理解することを講義の狙いとする。ローカル（地域）に根ざし、グローバル（地球規模）に思考し、行動する。そのための基礎知識、分析力、そして行動力を身につける。島嶼県・沖縄は、移民県でもあり、グローバルな発想と行動、展開の歴史を持つ。かつての琉球王国は大交易時代を謳歌し、万国津梁の精神を発揮したとされている。「グローバル」の時代を迎え、地域経済の動きを沖縄の動きも含めて概観する。

【授業の展開計画】

- 【1】 講義の進め方
- 【2】 地域経済学と沖縄の地域経済
- 【3】 地域とは（地域の概念）
- 【4】 地域経済学の課題
- 【5】 グローバリズムと地域経済（T P P問題）
- 【6】 地域経済の成長と不均衡発展
- 【7】 日本の地域構造
- 【8】 地域間格差
- 【9】 産業立地政策と地域経済（立地論の考え方）
- 【10】 国土開発計画（全総）と地域開発政策
- 【11】 全総と沖縄振興開発
- 【12】 産業構造の転換と地域経済構造
- 【13】 都市とは
- 【14】 東京一極集中と都市問題
- 【15】 土地問題と土地政策
- 【16】 交通政策と地域経済
- 【17】 後期テスト

【履修上の注意事項】

出席を重視します。地域経済学Ⅰと連動します。

【評価方法】

毎回講義に対する「質問と感想」を提出（出席票に代える）「質問と感想」＝需要と供給、双方向の講義を展開、筆力向上を目指すためのものです。

【テキスト】

岡田知弘・川瀬光義ほか著「国際化時代の地域経済学」（有斐閣アルマ）
参考文献：山田浩之・徳岡一幸編「地域経済学入門」（有斐閣コンパクト）

【参考文献】

地域経済学Ⅱ

担当教員 野崎 四郎

対象学年 3年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

地域経済学（Ⅰ、Ⅱ）では、空間の存在が資源配分に与える影響を明らかにして、経済主体の空間的配置と空間相互の関係について探求することを目的とする。また、現実の地域経済が抱える様々な問題に対して解決策を検討する。この講義と並行してマクロ経済学（Ⅰ、Ⅱ）や産業連関論の基礎と応用を受講する事が望ましい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	都市の生成発展（1）
2	都市の生成発展（2）
3	都市の生成発展（3）
4	都市の土地利用（1）
5	都市の土地利用（2）
6	住宅問題と住宅政策
7	住宅市場と住宅政策
8	地方財政と地方分権（1）
9	地方財政と地方分権（2）
10	地方財政と地方分権（3）
11	全国の地域政策（1）
12	全国の地域政策（2）
13	全国の地域政策（3）
14	沖縄の振興政策（1）
15	沖縄の振興政策（2）
16	沖縄の振興政策（3）

【履修上の注意事項】

【評価方法】

試験、課題レポートの提出、出席状況で総合的に評価を行う。試験は中間、最終を実施する。

【テキスト】

地域経済学入門 山田浩之著 有斐閣2009年。必要に応じて資料配布。

【参考文献】

「都市と地域の経済学」（新版） 黒田達郎・田淵隆俊・中村良平 有斐閣2008年、「地域経済学と地域政策」
H.アームストロング・J.テイラー（改訂版）流通経済大学出版社2005年

地域経済書講読 I

担当教員 野崎 四郎

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

市場経済に潜む様々な不幸な要因を格差という名称のもとに一括されている。格差論議をより建設的にするために、若者の雇用、地域間所得格差、高齢者所得格差について、“市場の失敗”について分析を行う。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	格差論争を理解するために
2	格差理解のための統計 (1)
3	格差理解のための統計 (2)
4	格差理解のための統計 (3)
5	所得格差
6	雇用格差
7	若者の格差
8	教育の格差
9	地域間所得格差
10	米国における格差 (1)
11	米国における格差 (2)
12	貧困への対策 (1)
13	貧困への対策 (2)
14	所得再分配政策
15	世代間所得格差
16	グローバル経済と格差問題

【履修上の注意事項】

【評価方法】

課題（レポート）の提出、出席状況で総合的に評価を行う。

【テキスト】

「格差を考える」伊藤元重 日本経済新聞出版社2008年

【参考文献】

「世代間格差ってなんだ」城繁幸・小黒一正・高橋良平 PHP新書。「孫は祖父より1億円損をする」島澤諭・山下努 朝日新書2009年。その都度、コピーを配布する。

地域経済書講読Ⅱ

担当教員 野崎 四郎

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

人口と経済の関係について講義する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	人口関連定義
2	世界人口の変遷
3	出生の動向
4	家族と子供の数
5	死亡と寿命
6	女性就業と出生率
7	世界と日本の将来人口 (1)
8	世界と日本の将来人口 (2)
9	世界と日本の将来人口 (3)
10	人口転換論
11	経済と人口 (1)
12	経済と人口 (2)
13	経済と人口 (3)
14	人口動態が迫る政策 (1)
15	人口動態が迫る政策 (2)
16	人口動態が迫る政策 (3)

【履修上の注意事項】

【評価方法】

課題（レポート）の提出、出席状況で総合的に評価を行う。

【テキスト】

その都度、コピーを配布する。

【参考文献】

必要に応じて、資料配布。

地域経済特別講義 I (地域経済と産業)

担当教員 中嶋 康博 (世話役: 呉 錫畢)

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 集中

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

テーマ: 転換期におけるわが国の農業とフードシステム

21世紀になり人口減少と高齢化が本格化する中で、国内の食料・農業は大きな転換期を迎えた。とりわけ2000年前後に起きた消費の変容は、中長期的な構造変動を引き起こすであろう。そのために、農業基本法から食料・農業・農村基本法へと展開してきた戦後の政策の枠組みは、あらためて大きく見直さなければならなくなっている。加えて、経済のグローバル化、社会の高度情報化が食料・農業・農村問題へ与える影響も大きい。これらの諸問題をフードシステムの視角から問い直し、産業界と行政が今後取り組むべき課題を検討する。

【授業の展開計画】

- 1回: 日本農業の実力
- 2回: 食料自給率
- 3回: 世界の農業生産と貿易
- 4回: 食生活の変貌
- 5回: 戦後農政の回顧
- 6回: 地域と農業のあり方
- 7回: フードシステムの概念
- 8回: 農産物流通の機能
- 9回: 小売業の展開
- 10回: 農協の実態と活動
- 11回: 生協の実態と活動
- 12回: コメ経済と制度
- 13回: 食品安全の制度と経済
- 14回: 食品表示制度
- 15回: 食の信頼とフードコミュニケーションの役割
- 16回: 試験 (小論文)

【履修上の注意事項】

指定した参考文献を事前に読んでくること

【評価方法】

出席状況と小論文とを総合して評価する

【テキスト】**【参考文献】**

生源寺眞一『日本農業の真実』ちくま新書

地域セミナー

担当教員 名城 敏（通年前半）、友知 政樹（通年後半）

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

地域セミナー

担当教員 永田（島袋） 伊津子（通年前半）、山川（屋敷） 彩子（通年後半）

対象学年 2年

開講時期 通年

単位区分 選択

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

地域セミナーは、沖縄県の地域経済や自然環境について、実際にフィールド（現地）に行って体験学習することが目的である。本セミナーでは、前期と後期で教員が交代するオムニバス形式で、地域経済については永田が、自然環境については山川が担当する。

【授業の展開計画】

本セミナーは以下の2つからなる。

- (1) 沖縄の地域経済の現場（永田担当）
事前学習を元にグループでテーマを設定し、沖縄の地域経済を支える現場で聞き取り調査を行う。事前学習を元に聞きとり対象を決める。主に産業を担う企業を中心に現場の声を聞き、再度聞きとった情報を踏まえてより深く分析する。分析内容をまとめてプレゼンテーションを行う。
- (2) 沖縄の自然環境や生物（山川担当）
沖縄の身近な場所にどのような生物が生息しているか調べ、生物の役割や体の構造について野外実習と室内実験から学ぶ。実習は週末に集中で実施する。実習地としては、浦添大公園や読谷村宇座海岸等があげられるが、天候や日程により随時変更する。実習後、データを処理・分析し考察を加えレポートとしてまとめる。

前期（永田担当）

- 第1週 ガイダンス
- 第2～5週 事前学習
- 第6～8週 フィールドワーク
- 第9～11週 聞き取り調査の結果を元に分析
- 第12～14週 フィールドワーク
- 第15週 研究発表

後期（山川担当）

- 第1週 ガイダンス
- 第2～3週 事前学習
- 第4週 フィールドワーク（教員引率）
- 第5～7週 グループ調査（各自調査）
- 第8～9週 レポート作成
- 第10～13週 沖縄の危険生物・外来生物についての調べ発表
- 第14週 フィールドワーク

【履修上の注意事項】

事前に割り振られた2年次のみ登録許可する。その他の学生（3・4年次）は、登録前に面接を実施するので、研究室（9-505）に相談に来ることとする。

【評価方法】

単位取得には、3分の2以上の出席、課題（レポート、レジメ）の提出が必須である。評価は、演習における発言の内容やレポートの内容により総合的に評価する。

【テキスト】

【参考文献】

地域セミナー

担当教員 上江洲 薫（通年前半）、砂川 かおり（通年後半）

対象学年 2年

開講時期 通年

単位区分 選択

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

地域セミナーは、少人数(20名弱)で展開する。自然環境あるいは社会・経済に関するテーマについてゼミ形式で教室での授業を進めながら、同時に野外での巡検・地域学習(エクスカーション)も実施し、実際の沖縄の自然のしくみや環境問題、地域経済(農業、観光、商業など)について自分の眼や耳、肌で感じ取り、考えていく。このセミナーは3年次からの演習Ⅰの基礎として位置づけている。

【授業の展開計画】

前期は、「地域産業と地域活性化」をテーマに、2回の巡検(小雨決行)を行う。初回は恩納村・金武町におけるホテル・基地門前町・米軍住宅地・酒造所・エコツアー・花卉園芸地域などの現状、2回目には沖縄市中心市街地の活性化に関する巡検を行い、中心市街地の現状と課題を検証し、活性化の議論・提言を行う。

後期は、「沖縄の環境問題と法」をテーマに、2つの事件について検証する。初回は米軍基地の騒音問題を取り上げ、過去の判例や係争中の訴訟について資料調査、現場視察と関係者への事実照会を基に法政策の課題について議論する。2回目には、公共事業の環境問題を取り上げ、過去の判例や係争中の訴訟について資料調査、現場視察と関係者への事実照会を行い、調査結果を基に事業の賛否について議論する。

<前期：上江洲担当>

1. 講義説明
2. 巡検の準備：受講生が与えられたキーワードを調べて、巡検に備える。
3. 1回目巡検(土曜か日曜、一日中)：恩納村や金武町などを巡検、巡検レポート作成・提出
4. 2回目巡検(半日)：沖縄市中心市街地の現状調査
5. 中心市街地の活性化のディスカッション・提言し、パワーポイントにまとめてグループ毎に発表
6. まとめ

<後期：砂川担当>

1. 講義説明、法律系データベース演習、グループ分け
2. 受講生による普天間基地爆音訴訟や類似する事件に関する事実、関係法、判例等の発表
3. 関係者への事実照会の準備：受講生が与えられたキーワードを調べて、ヒアリングに備える。
4. 5号館より普天間基地視察・宜野湾市基地政策部より普天間基地の騒音被害についての説明
5. 道の駅かでなから嘉手納基地視察、沖縄防衛局からのヒアリング
6. グループ毎に担当箇所のヒアリングの結果をパワーポイントにまとめて発表・ディスカッション
7. 普天間基地騒音の解決に向けた法政策の課題や提言についてパワーポイントにまとめてグループ毎に発表
8. レポート提出、受講生による泡瀬干潟訴訟や類似する事件に関する事実、関係法、判例等の発表
9. 沖縄市東部海浜開発計画と泡瀬干潟訴訟について(訴訟原告団より講演)
10. 泡瀬干潟 自然観察会、沖縄市役所にてヒアリング
11. 沖縄市東部海浜開発計画に関するディベート1・2(レポート提出) まとめ

【履修上の注意事項】

初回のガイダンスには必ず出席して下さい。授業内容の詳細や巡検の日程を決定し、また、出席も取ります。特に出席を重視するので注意すること。

【評価方法】

成績評価は出席および講義への参加姿勢、用語等説明の発表、レポートなどにもとづいておこなう。

【テキスト】

特にテキストを使用しない。

【参考文献】

参考文献は講義中に紹介する。

地域セミナー

担当教員 友知 政樹（通年前半）、小川 護（通年後半）

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

この授業は、必修科目で少人数（およそ25名）で展開する自然環境あるいは社会文化さらには地域経済に関するテーマについてオブにバス形式で進めるゼミである。自然環境、社会文化については小川が担当し、地域経済に関することは友知が担当する。また、日帰りの野外実習を予定している。ゼミの詳細な内容や進め方については、第一回目のゼミの時間に調整する。

【授業の展開計画】

（前半）担当：友知

1. 地域セミナー（前期）のガイダンス
- 2～15. グループに分かれて地域について調べ、発表を通して調べた内容をシェアする。調べた地域についてフィールドワークを行う。どの地域に焦点を絞るかに関しては、セミナーにおいて決定する。
16. まとめ

（後半）担当：小川

1. 地域セミナー（後期）のガイダンス
- 2～5. 地域研究の基本（フィールドワークと地域研究）
- 6～8. 沖縄の地形を探る（8回目地形の巡検）
- 9～11. 沖縄の農業について考える（11回目：沖縄農業の巡検）
- 11～12. 沖縄の水資源について考える（13回目：沖縄の水資源についての巡検）
13. 沖縄の水資源について（北谷浄水場と海水淡水化センターを見学）
- 14～16. みじかな地域についての調査報告とこれまでのまとめ

【履修上の注意事項】

この授業は必修科目で、自然環境、社会文化、地域経済についてテーマを決めて、友知、小川両教員が担当する。授業の進め方については第一回のセミナーの時間（木曜日4校時）で調整するので休まないこと。

【評価方法】

出席状況、授業への参加度、レポート等で総合的に判断する。

【テキスト】

講義の中で適宜紹介する。

【参考文献】

講義の中で適宜紹介する。

地域セミナー

担当教員 前泊 博盛（通年前半）、上江洲 薫（通年後半）

対象学年 2年

開講時期 通年

単位区分 選択

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

地域セミナーは、少人数(20名弱)で展開する。自然環境あるいは社会・経済に関するテーマについてゼミ形式で教室での授業を進めながら、同時に野外での巡検・地域学習(エクスカージョン)も実施し、実際の沖縄の自然のしくみや環境問題、地域経済(農業、製造業、観光、商業など)について自分の眼や耳、肌で感じ取り、考えていく。このセミナーは3年次からの演習Ⅰの基礎として位置づけている。

【授業の展開計画】

本講義では、前期を前泊、後期を上江洲が担当する。

前期は、沖縄振興策で整備された地域振興インフラ(観光施設、商業施設、産業施設など社会資本)の現場視察、調査、研究を通して、沖縄経済の実態を検証します。

後期は、「琉球石灰岩地域の自然環境と河川水質」をテーマに、2回の巡検(小雨決行)を行う。初回は読谷村・うるま市における廃棄物処分場・リサイクル工場・飛行場跡地・最終処分場・浄化センター・残波岬での植物調査・ホテルなどの現状、2回目には雄樋川(ゆうひかわ：南城市等内の河川)の水質調査を行い、水質浄化方法の議論・提言を行う。

<前泊担当>

1. 講義の概要説明
2. 沖縄振興策の概況
3. 離島架橋の調査(浜比嘉大橋など)
4. 離島架橋の経済効果の検証
5. 中城湾港工業団地の調査
6. 工業団地政策の経済効果の検証
7. まとめ

<上江洲担当>

1. 講義説明
2. 巡検の準備：受講生が与えられたキーワードを調べて、巡検に備える。
3. 1回目巡検(土曜か日曜、一日中)の予定ルート：読谷村役場→沖縄市倉敷(廃棄物処分場)→うるま市川崎(昭和製紙)→読谷村(読谷補助飛行場、最終処分場、楚辺浄化センター、残波岬公園：植物調査、ホテル・ゴルフ場、石切場跡)
4. 巡検レポート作成・提出
5. 2回目巡検(半日)：雄樋川(ゆうひかわ：南城市等内の河川)の水質調査
6. 雄樋川の水質浄化に関するディスカッション・提言し、パワーポイントにまとめてグループ毎に発表
7. まとめ

【履修上の注意事項】

初回のガイダンスには必ず出席して下さい。授業内容の詳細や巡検の日程を決定し、また、出席も取ります。特に出席を重視するので注意すること。

【評価方法】

成績評価は出席および講義への参加姿勢、用語等説明の発表、レポートなどにもとづいておこなう。

【テキスト】

テキストを使用しない。

【参考文献】

前 泊：参考文献「もっと知りたい！本当の沖縄」(前泊博盛著、岩波ブックレット)
上江洲：テキストを使用しない。参考文献は講義中に紹介する。

地域セミナー

担当教員 山川（矢敷） 彩子（通年前半）、永田（島袋） 伊津子（通年後半）

対象学年 2年

開講時期 通年

単位区分 必

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

地域セミナーは、沖縄県の地域経済や自然環境について、実際にフィールド（現地）に行って体験学習することが目的である。本セミナーでは、前期と後期で教員が交代するオムニバス形式で、地域経済については永田が、自然環境については山川が担当する。本講義は事前に割り振られた2年次のみ登録許可する。その他の学生（3・4年次）は、登録前に面接を実施するので、研究室（9-505）に相談に来ることとする。

【授業の展開計画】

本セミナーは以下の2つからなる。

(1) 沖縄の自然環境や生物（前期：山川担当）

沖縄の身近な場所にどのような生物が生息しているか調べ、生物の役割や体の構造について野外実習と室内実験から学ぶ。実習は週末に集中で実施する。実習地としては、浦添大公園や読谷村宇座海岸等があげられるが、天候や日程により随時変更する。実習後、データを処理・分析し考察を加えレポートとしてまとめる。

第1週 ガイダンス
 第2～3週 事前学習
 第4週 フィールドワーク（教員引率）
 第5～7週 グループ調査（各自調査）
 第8～9週 レポート作成
 第10～13週 沖縄の危険生物・外来生物についての調べ発表
 第14～15週 フィールドワーク

(2) 沖縄県の地域経済（後期：永田担当）

事前学習を元にグループでテーマを設定し、沖縄の地域経済を支える現場で聞き取り調査を行う。事前学習を元に聞きとり対象を決める。主に産業を担う企業を中心に現場の声を聞き、再度聞きとった情報を踏まえてより深く分析する。分析内容をまとめてプレゼンテーションを行う。

第1週 ガイダンス
 第2～5週 事前学習
 第6～8週 フィールドワーク
 第9～11週 聞き取り調査の結果を元に分析
 第12～14週 フィールドワーク
 第15週 研究発表

【履修上の注意事項】

事前に割り振られた2年次のみ登録許可する。その他の学生（3・4年次）は、登録前に面接を実施するので、研究室（9-505）に相談に来ることとする。

【評価方法】

単位取得には、3分の2以上の出席、課題（レポート、レジメ）の提出が必須である。評価は、演習における発言の内容やレポートの内容により総合的に評価する。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

適宜紹介する。

地域セミナー

担当教員 小川 護（通年前半）、呉 錫畢（通年後半）

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

この授業では、沖縄の自然環境及び社会環境に関する諸問題を検討する。授業は少人数ゼミ形式で行い、毎回、各自の発表テーマに沿いながら議論する。また、野外学習（フィールドワーク）を行いながら、「現場」において地域発展の視点から環境問題や基地問題などの実態を考察する。

【授業の展開計画】

授業の展開計画（前半）：担当 小川

1. 地域セミナー（前半）のガイダンス
- 2～4 地域研究の基本（フィールドワークと地域研究）
- 5～7 沖縄の地形を巡る（7回日本島中南部における地形の巡検）
- 8～10. 沖縄の農業について考える（10回目：沖縄農業の巡検）
- 11～13. 沖縄の水資源について考える（13回目：沖縄の水資源についての巡検）
- 14～16. みじかな地域についての調査報告（当科目履修者の身近な地域について、各自テーマを決めて調査し報告する）とまとめ

授業の展開計画（後半）：担当 呉

- 第1週 地域セミナーに関するオリエンテーション
- 第2週 地域とは何かについて発表（Ⅰ）
- 第3週 地域とは何かについて発表（Ⅱ）
- 第4週 北部地域の経済状況グループで発表
- 第5週 北部地域の環境問題についてグループで発表
- 第6週 北部地域の観光問題についてグループで発表
- 第7週 北部地域の基地問題についてグループで発表
- 第8週 北部地域の経済・環境・観光・基地についてディベート
- 第9週 沖縄経済振興における開発の功罪について概説
- 第10週 北部開発における赤土汚染の現状
- 第11週 基地から見る辺野古経済を質す
- 第12週 海洋博からみる沖縄経済と美瀬フクギ並木の環境価値
- 第13週 国頭村安波から観光経済の未来を探る
- 第14週 地域と経済に関するディベート1
- 第15週 地域と経済に関するディベート2
- 第16週 地域発展の視点より総括

【履修上の注意事項】

この授業は、沖縄の自然環境及人文・社会環境に関する諸問題を学びながら、野外学習（フィールドワーク）を行う内容になっている。特に出席を重視するので注意すること。

【評価方法】

出席状況、授業への参加度、レポート等で総合的に判断する。

【テキスト】

必要に応じて資料を配付する。

【参考文献】

講義の中で適宜紹介する。

地域セミナー

担当教員 呉 錫畢（通年前半）、根路銘 もえ子（通年後半）

対象学年 2年

開講時期 通年

単位区分 選択

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

この授業では、沖縄地域の自然環境及び社会環境に関する諸問題を検討する。授業は少人数ゼミ形式で行い、毎回、各自の発表テーマに沿いながら議論する。また、野外学習を行いながら、データ分析も行いながら、地域とかかわる諸問題に対して考察し、社会における問題意識が培われることを目標とする。

【授業の展開計画】

<前期>

- 第1週 地域セミナーに関するオリエンテーション
- 第2週 地域とは何かについて発表（Ⅰ）
- 第3週 地域とは何かについて発表（Ⅱ）
- 第4週 北部地域の経済状況グループで発表
- 第5.6週 北部地域の環境・基地問題についてグループで発表
- 第7.8週 北部地域の観光・経済についてグループで発表
- 第9週 北部地域の経済・環境・観光・基地についてディベート
- 第10週 沖縄経済振興における開発の功罪について概説（赤土流出を中心に）
- 第11週 基地から見る辺野古経済を質す
- 第12週 海洋博からみる沖縄経済と美瀬フクギ並木の環境価値
- 第13週 国頭村安波から観光経済の未来を探る
- 第14.15週 地域と経済に関するディベートⅠ・Ⅱ
- 第16週 地域発展の視点より総括

<後期>

- 第1週 講義説明およびフィールド調査日程調整
- 第2週 データに関する基礎知識1
- 第3週 データに関する基礎知識2
- 第4週 フィールド調査の準備1（グループ学習）
- 第5週 （5～7）フィールド調査1
- 第8週 調査結果まとめ・データ分析1
- 第9週 調査結果報告会1
- 第10週 フィールド調査の準備2（グループ学習）
- 第11～13週 フィールド調査2
- 第14週 調査結果まとめ・データ分析2
- 第15週 調査結果報告会2
- 第16週 総括

【履修上の注意事項】

この授業は、沖縄の自然環境及び社会環境に関する諸問題を学びながら、野外学習（フィールドワーク）を行う内容になっている。特に出席を重視するので注意すること。

【評価方法】

出席状況、授業への参加度、レポート等で総合的に判断する。

【テキスト】

必要に応じて資料を配付する。

【参考文献】

講義の中で適宜紹介する。

地理情報システム論 I

担当教員 渡辺 康志

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義は実際にGISソフトを操作し実習形式で地図作成や空間分析などの地理情報システムの基本概念を学ぶ講義である。GISソフト基本操作とデータ取り扱い方法を習得することを目的とし、地理情報システム（GIS）基本概念、GISデータ表示方法、基本的なデータ処理方法を演習形式で学習する。

【授業の展開計画】

- 第1回 オリエンテーション(講義計画、評価方法等の説明)
- 第2回 地理情報システム概要
- 第3回 GISソフト基本操作（ソフト及びデータの基本操作法）
- 第4回 ベクトルデータ（ベクトルGISデータの特徴とその操作・表示法）
- 第5回 ラスターデータ（ラスターGISデータの特徴とその操作・表示法）
- 第6回 レイヤー管理（GISデータのオーバーレイ）
- 第7回 主題図1（ベクトルデータの個別値主題図の作成）
- 第8回 マップデータの利用法（マップのレイアウト作成方と画像出力と印刷）
- 第9回 属性情報（属性情報の操作方法及びインポート、属性表の結合）
- 第10回 主題図2（ベクトルデータの段階区分主題図の作成）
- 第11回 主題図3（各種主題図作成と高度利用法）
- 第12回 GISデータの検索（属性値によるベクトルデータの検索）
- 第13回 属性情報の編集（属性フィールドの更新と検索データの保存）
- 第14回 期末レポート作成1（GISデータの総合利用によるレポート作成）
- 第15回 期末レポート作成2（GISデータの総合利用によるレポート作成，提出）

【履修上の注意事項】

情報処理基礎等の情報関連単位を履修済みであること。特に本講義はGISソフトを操作しながら学ぶ形式であるため、毎回出席すること。コンピュータ・ソフトの台数に制約があるためその上限数を越える場合は抽選となる。GISデータを保管する4Gバイト以上のUSBメモリーを準備すること。

【評価方法】

実習形式の講義のため、毎講義時作成或いは処理したデータの提出を課す。また、期末試験としてGISデータを処理して作成するレポートを課す。成績は毎講義時の提出データ（60%）及び期末レポートの内容（40%）を総合して判断する。

【テキスト】

「GIS自習室」古今書院及び補完的にレジュメを配布する。

【参考文献】

“Geographic Information Systems and Science” JOHN WILEY & SONS, LTD/張長平著『空間データ分析』 古今書院/地理情報システム学会編『地理情報科学事典』 朝倉書店

地理情報システム論Ⅱ

担当教員 渡辺 康志

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義は地理情報システム論Ⅰに引き続き、実際にGISソフトを操作し実習形式で地図作成や空間分析などの地理情報システムの基本概念を学ぶ講義である。GISソフト基本操作とデータ取り扱い方法を習得することを目的とし、地理情報システム（GIS）基本概念、GISデータ表示方法、基本的なデータ処理方法を演習形式で学習する。

【授業の展開計画】

- 第1回 オリエンテーション(講義計画、GISソフト基本操作確認)
- 第2回 ラスターデータ作成1 (国土地理院地形図の利用法)
- 第3回 ラスターデータ利用法 (地図投影法設定とモザイク処理)
- 第4回 ラスターデータ作成2 (スキャン地形図, 空中写真の多点ジオリファレンス)
- 第5回 ベクトルデータ作成法1 (ポイントデータの作成法)
- 第6回 ベクトルデータ作成法2 (ラインデータ・ポリゴンの作成法)
- 第7回 GPSデータ取得と利用法
- 第8回 測地系・座標系の変換 (緯度経度と平面直角座標系, 日本測地系と世界測地系)
- 第9回 空間検索1 (空間検索法とマップクリップ)
- 第10回 空間検索2 (バッファオブジェクト・ティーセンポリゴンの作成と空間検索法)
- 第11回 空間操作3 (オーバーレイ検解析とオブジェクト変換)
- 第12回 ネットワークデータと分析法
- 第13回 データの3D表現と分析法
- 第14回 期末レポート作成1 (GISデータの総合利用によるレポート作成)
- 第15回 期末レポート作成2 (GISデータの総合利用によるレポート作成, 提出)

【履修上の注意事項】

地理情報システム論Ⅰを修得済みであること。情報処理基礎等の情報関連単位を履修済みであること。特に本講義はGISソフトを操作しながら学ぶ形式であるため、毎回出席すること。コンピュータ・ソフトの台数に制約があるためその上限数を越える場合は抽選となる。GISデータを保管する4Gバイト以上のUSBメモリーを準備すること。

【評価方法】

実習形式の講義のため、毎講義時作成或いは処理したデータの提出を課す。また、期末試験としてGISデータを処理して作成するレポートを課す。成績は毎講義時の提出データ(60%)及び期末レポートの内容(40%)を総合して判断する。

【テキスト】

「GIS自習室」古今書院及び補完的にレジュメを配布する。

【参考文献】

“Geographic Information Systems and Science” JOHN WILEY & SONS, LTD/張長平著『空間データ分析』 古今書院/地理情報システム学会編『地理情報科学事典』 朝倉書店

統計情報処理 I

担当教員 友知 政樹

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では、回帰分析を基軸に基礎的な多変量解析法について学ぶことを目的とする。具体的には、多変量解析法の理論を理解すると同時に、実際のデータをエクセルなどの統計ソフトを利用しながら統計処理し、その方法ならびに結果の解釈について学ぶ。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義ガイダンス
2	基本統計量とエクセル (1)
3	基本統計量とエクセル (2)
4	基本統計量とエクセル (3)
5	相関分析 (1)
6	相関分析 (2)
7	単回帰分析 (1)
8	単回帰分析 (2)
9	重回帰分析 (1)
10	重回帰分析 (2)
11	回帰モデルの仮説検定と予測 (1)
12	回帰モデルの仮説検定と予測 (2)
13	ダミー変数 (1)
14	ダミー変数 (2)
15	最終試験
16	

【履修上の注意事項】

統計情報処理 I・II の両方を履修することが望ましい。
 予め、環境統計学 I・II もしくは統計学 I・II を履修している方が望ましい。

【評価方法】

出席状況、レポート、試験などにより総合的に評価する。

【テキスト】

未定

【参考文献】

参考文献は講義時に紹介する。

統計情報処理Ⅱ

担当教員 友知 政樹

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では、回帰分析の習得を前提に、多変量解析法について発展的に学ぶことを目的とする。具体的には、多変量解析法の理論を理解すると同時に、実際のデータをエクセルなどの統計ソフトを利用しながら統計処理し、その方法ならびに結果の解釈について学ぶ。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義ガイダンス
2	回帰分析の復習（1）
3	回帰分析の復習（2）
4	回帰分析の復習（3）
5	時系列重回帰分析（1）
6	時系列重回帰分析（2）
7	主成分分析（1）
8	主成分分析（2）
9	主成分分析（3）
10	コンジョイント分析（1）
11	コンジョイント分析（1）
12	コンジョイント分析（2）
13	コンジョイント分析（3）
14	総まとめ
15	最終試験
16	

【履修上の注意事項】

統計情報処理Ⅰ・Ⅱの両方を履修することが望ましい。
 予め、環境統計学Ⅰ・Ⅱもしくは統計学Ⅰ・Ⅱを履修している方が望ましい。

【評価方法】

出席状況、レポート、試験などにより総合的に評価する。

【テキスト】

未定

【参考文献】

参考文献は講義時に紹介する。

島嶼環境論

担当教員 名城 敏

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

沖縄のような海洋性を有する亜熱帯の島嶼の生態系は、いくつかの要素が互いに複雑に関わり合いながら成り立っている。それは、微妙なバランスの上に成り立っているため脆弱性をも有する。

本講では、島の自然環境および生態系等について学びながら島が抱えてきた諸課題と新たな課題等についてどのように対応すべきか、対応できるのか共に考えたい。

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

しばしば、予告なしの試験を実施する場合がありますので注意を要する。試験問題は、講義内容に基づいて、論述形式で出題する。

【評価方法】

評価は試験の結果にもとづき行う。

【テキスト】

未定

【参考文献】

講義の中でその都度紹介する。

島嶼経済論

担当教員 前泊 博盛

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

沖縄・島嶼経済の特徴を理解し、島嶼県沖縄の課題と可能性を探ります。世界の島嶼地域の経済分析を通して、島嶼県沖縄の島嶼経済の特性と課題克服策を論じます。事例研究としてシンガポール、香港、台湾、ハワイ、済州島などを取り上げます。島嶼ならではの歴史、産業構造、課題を抽出し、島嶼・半島地域の成功事例など比較検証しながら発展可能性についても論証していきます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	はじめにー島嶼経済とは
2	島嶼経済の問題性
3	海洋と島嶼
4	近代沖縄における島嶼経済
5	近代的島嶼経済の課題
6	島嶼経済と基地経済①沖縄
7	〃 ②グアム・サイパン
8	〃 ③フィリピン
9	〃 ④シンガポール・香港
10	日本復帰と島嶼経済ー復帰後沖縄経済の変容
11	島嶼経済とT P P①農業
12	〃 ②貿易
13	〃 ③観光
14	〃 ④工業
15	島嶼経済論総括
16	後期試験

【履修上の注意事項】

【評価方法】

課題（レポート）の提出、出席状況で総合的に評価を行う。

【テキスト】

「沖縄県における今後の離島振興策に関する調査報告書」（沖縄振興総合調査、2011年3月）ほか

【参考文献】

検証 沖縄問題／百瀬恵夫・前泊博盛著／東洋経済新報社

都市環境論

担当教員 上江洲 薫

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では、都市において発生する環境問題を概観する。このような環境問題には、廃棄物問題、大気環境問題、水環境問題、エネルギー問題などの問題が含まれる。講義では、これらの問題を個別に取り上げるだけでなく、問題相互の関連性を検討し、都市環境のマネジメントを考える。

【授業の展開計画】

1. 講義説明
2. 都市と環境の関わり①－都市の変遷
3. 都市と環境の関わり②－都市の環境問題、環境影響
4. 都市と環境の関わり③－都市への集中と交通
5. 都市のエネルギー消費と二酸化炭素の排出①－日本の都市
6. 都市のエネルギー消費と二酸化炭素の排出②－二酸化炭素の削減対策
7. 物質の循環と廃棄物①－循環型社会
8. 物質の循環と廃棄物②－廃棄物の問題と活用
9. 都市と水環境①－都市の水収支
10. 都市と水環境②－水の供給と保全
11. 都市の大気環境と熱環境①－大気汚染の変遷と特徴
12. 都市の大気環境と熱環境②－大気汚染物質とその対策
13. 都市の大気環境と熱環境③－ヒートアイランド現象の特徴
14. 都市の大気環境と熱環境④－ヒートアイランド現象の対策
15. 都市環境の包括的マネジメント－都市環境改善、環境負荷と生活の質
16. 試験

【履修上の注意事項】

途中退席や私語を繰り返す受講生は大きな減点とする。初回の講義から出席を取る。休講した場合、巡検（野外実習）を行うことがある。

【評価方法】

成績評価は出席・講義への参加姿勢（30点）や試験（40点）、講義内容に関する感想や作業物の提出（30点）で判断する。

【テキスト】

テキストは使用しない。

【参考文献】

花木啓祐『都市環境論』（岩波書店）、福岡義隆・本条毅『都市の風水土 都市環境学入門』（朝倉書店）、都市環境学教材編集委員会編『都市環境学』（森北出版）

都市経済論

担当教員 上江洲 薫

対象学年 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

都市経済学は、都市の発展及び都市構造の形成過程について、理論的な分析によって都市という単位からその経済現象を研究・考察する分野である。本講義では、都市の形成と構造、都市問題、まちづくり、産業集積、空間的システムなどを中心に、身近な都市経済について自分なりに考える力を身に付けることを目的とする。

【授業の展開計画】

1. 講義説明
2. 都市システムの形成と構造
3. 都市化と都市問題
4. 都市の郊外化とエッジ・シティ
5. コンパクトシティの特性とまちづくり
6. 都市経済の空間的内部分化
7. 都市経済における土地と住宅
8. 都市の土地問題とゾーニング
9. 外部不経済とゼロ・エミッション
10. 中心性と都市システム
11. 商業空間と商店街①小売業の立地と商店街
12. 商業空間と商店街②駅前中心市街地とネットワーク
13. 都市観光とまちづくり
14. 技術革新と集積の自生的展開
15. 国際分業と分散ネットワーク型集積
16. 試験

【履修上の注意事項】

途中退席や私語を繰り返す受講生は大きな減点とする。初回の講義から出席を取る。休講した場合、巡検（野外実習）を行う。

【評価方法】

成績評価は出席・講義への参加姿勢(30点)や試験(40点)、講義内容に関する感想や作業物の提出(30点)で判断する。

【テキスト】

指定しない。配布資料を使用(A4ファアイルを用意すること)

【参考文献】

杉浦章介『都市経済論』(岩波書店)。富田和暁・藤井正編『図説 大都市圏』(古今書院)

土壌学概論

担当教員 名城 敏

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

土壌学の分野において、土壌を自然体としてみなし、その生成や分類に関する分野をペドロジー (pedology)、農業や環境に結び付いた分野をエダホロジー (edaphology) とそれぞれ呼んでいる。土壌科学 (soil science) は両方を内包している。本講の内容は土壌科学とし、土壌学の基礎知識に加え、沖縄県に分布する土壌 (ジャーガル、島尻マージおよび国頭マージ等) の特性と環境問題 (土壌侵食や赤土等の海域流入等) との関わりについても論じていきたい。

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

しばしば、予告なしの試験を実施する場合がありますので注意を要する。試験問題は、講義内容に基づいて、論述形式で出題する。

【評価方法】

評価は試験の結果にもとづき行う。

【テキスト】

未定

【参考文献】

講義の中でその都度紹介する。

農業と環境

担当教員 名城 敏

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

農業と経済

担当教員 藤原 昌樹

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

農業と食料をめぐる経済的現象を解明する学問である農業経済学の基本的な理論を学ぶことを目的とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	農業経済学のミクロ経済学的基礎
2	農業経済学のミクロ経済学的基礎
3	経済発展と農業
4	経済発展と農業
5	食料の需要と供給
6	食料の需要と供給
7	農産物貿易と農業保護政策
8	農産物貿易と農業保護政策
9	農産物貿易と農業保護政策
10	世界の人口と食料
11	世界の人口と食料
12	資源・環境と農業
13	資源・環境と農業
14	日本及び沖縄の農業
15	日本及び沖縄の農業
16	試験

【履修上の注意事項】

【評価方法】

講義終了時に論述式の試験を行う。農業経済学の基本的な概念・理論を理解しているか否かを合否の判定基準とする。

【テキスト】

講義はレジュメを用いて行ない、特にテキストの指定はしない。

【参考文献】

荏開津典生『農業経済学 第3版』岩波書店 2008年
 時子山ひろみ・荏開津典生『フードシステムの経済学 第4版』医歯薬出版株式会社 2008年
 原洋之介『北の大地・南の列島の「農」』書籍工房早山 2007年

廃棄物論

担当教員 玉栄 章宏

対象学年 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義では、日本における廃棄物に関する歴史、現状、循環利用の現状、海外における廃棄物問題の順に学んでいく。講義を通して日本および世界の廃棄物問題の概要を理解できるようにする。本講義は最終年次においても追試および再試験は実施しないので登録の際気をつけること。

【授業の展開計画】

講義では基本的に以下の内容を実施するが、講義の順番や内容は変更することがある。

週	授 業 の 内 容
1	講義ガイダンス
2	日本における廃棄物処理の歴史 (1)
3	日本における廃棄物処理の歴史 (2)
4	日本の物質フロー
5	廃棄物とは
6	循環的な利用の現状 (1)
7	循環的な利用の現状 (2)
8	一般廃棄物と産業廃棄物
9	廃棄物関連情報 (最終処分場・不法投棄、石綿、PCB、ダイオキシン、越境移動) (1)
10	廃棄物関連情報 (最終処分場・不法投棄、石綿、PCB、ダイオキシン、越境移動) (2)
11	海外における廃棄物問題
12	中間試験 (筆記試験)
13	学生のレジメ発表 (1)
14	学生のレジメ発表 (2)
15	学生のレジメ発表 (3)
16	学生のレジメ発表 (4)

【履修上の注意事項】

登録調整期間の出席状況も評価に反映する。
 欠席理由に関わらず、3分の1以上の欠席は不可となる。
 出席で代筆が明らかとなった場合は不可となる。
 最終年次においても追試は実施しないので気をつけること。

【評価方法】

出席状況、課題の発表、試験およびレポートの内容により総合的に評価する。3分の1以上の欠席、課題の未提出、試験や発表を欠席した学生には単位を与えない。

【テキスト】

環境循環型社会白書 平成22年版(環境省ホームページからも閲覧可能)。

【参考文献】

必要に応じて紹介する。

ファイナンシャルプランニング

担当教員 安藤 由美

対象学年 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期・後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

ファイナンシャル・プランナー（FP）の仕事は、顧客の人生設計に基づいて総合的な資産設計をプランニングし、提案することです。金融機関で仕事する上で、FP知識は不可欠です。また自分の将来設計をする上で重要な知識を、学生の段階で理解しておくことは有益です。授業では、学科試験の領域を整理しながら学習する。

【授業の展開計画】

- 1 講義の概要・計画
- 2 ライフプランニングと資金計画（1）
- 3 ライフプランニングと資金計画（2）
- 4 リスク管理（1）
- 5 リスク管理（2）
- 6 金融資産運用（1）
- 7 金融資産運用（2）
- 8 中間テスト1
- 9 タックスプランニング（1）
- 10 タックスプランニング（2）
- 11 不動産（1）
- 12 不動産（2）
- 13 相続・事業承継（1）
- 14 相続・事業承継（2）
- 15 中間テスト2
- 16 期末試験

【履修上の注意事項】

電卓を持参すること。
前回講義の確認として小テストを実施する。

【評価方法】

中間テスト（2回）、期末テスト、小テストに基づき評価する。

【テキスト】

フィナンシャルバンクインスティテュート編『わかる!FP技能士3級最速テキスト〈2011-2012年版〉』 日本経済新聞出版社 2011年

【参考文献】

フィナンシャルバンクインスティテュート編『わかる!FP技能士3級最速問題集〈2011-2012年版〉』 日本経済新聞出版社 2011年

不動産評価論

担当教員 玉那覇 兼雄

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

「不動産鑑定評価基準」の解説を中心に、不動産と人、そして街づくりとの関わりについて、理論と実践を学習します。

不動産に興味を持っている方、特に、将来、不動産鑑定士の国家試験を目指す方、金融機関や不動産会社への就職を希望される方、フィナンシャルプランナー、宅地建物取引主任者等の資格取得を目指す方が受講されることを勧めます。

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

特になし。

【評価方法】

出席を重視し、最終試験により評価します。

【テキスト】

不動産鑑定評価基準

【参考文献】

鑑定評価理論研究会編著 「要説 不動産鑑定評価基準」 (住宅新報社)

プログラミング演習

担当教員 根路銘 もえ子

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

情報が氾濫する現在において、膨大な情報資源の中から必要な情報を的確に収集し、それを活用する能力が求められている。本講義では、情報リテラシー演習で学んだ基礎知識に続き、データ分析に必要な表計算ソフトウェアのプログラミングについて学習するとともに、収集したデータの見せ方、画像処理の方法、さらに、情報提供の場としてのWebページ制作およびJavaScriptに関して主に学習する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義ガイダンス・コンピュータ情報リテラシーの基本
2	表計算ソフトウェアの復習
3	表計算ソフトウェアの応用 (1)
4	表計算ソフトウェアの応用 (2)
5	表計算ソフトウェアの応用 (3)
6	表計算ソフトウェアの応用 (4)
7	表計算ソフトウェアの応用 (5)
8	表計算ソフトウェアの応用 (6)
9	Webページ制作 (1)
10	Webページ制作 (2)
11	JavaScriptの基本 (1)
12	JavaScriptの基本 (2)
13	JavaScriptの基本 (3)
14	インターネットによる情報検索・画像データ処理 (1)
15	インターネットによる情報検索・画像データ処理 (2)
16	期末試験

【履修上の注意事項】

地域環境政策学科・1年次以上対象科目。講義は段階的に進めるので、講義内容を理解してもらうためにも出席を重視する。現3・4年次の必修科目であるため3・4年次優先。空きがあれば、他年次の学生の登録も可能とする。

【評価方法】

出席状況、課題内容、試験により総合的に評価する。

【テキスト】

講義中にレジメを配布する。

【参考文献】

開講時に紹介する。

簿記原理 I

担当教員 井口 千秋

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

簿記は経済社会において有用な道具として広く利用されています。例えば、大企業では、一日に何億もの資金を動かしています。この膨大な取引を整理しているのが簿記であります。また、一方では、小さな商店や個人事業であっても簿記を利用して取引を整理しています。簿記はこのような企業の取引を記録し、「財務諸表」という報告書にまとめる技術です。このように現在社会において欠かせない簿記について本講義では基礎的な技法の習得とともに、特徴の理解を深めていただきます。

【授業の展開計画】

- 第1章 簿記の基礎
- 第2章 現金及び小口現金
- 第3章 当座預金勘定
- 第4章 商品売買取引
- 第5章 手形
- 第6章 その他の債権債務
- 第7章 貸倒引当金
- 第8章 有価証券
- 第9章 固定資産

【履修上の注意事項】

- (ア) 電卓、赤ペン、定規持参。(イ) 各回の授業は相互に関連して一体となっています。欠席すると全体像がつかめなくなりますので、万一欠席した場合は、必ずその部分を自分自身で補う必要があります。
- (ウ) 大学で初めて簿記を学ぶ者を中心とし、簿記の基本について講義します。
- (エ) 簿記検定試験の受験などで成果の確認を行うことをお勧めします。
- (オ) 後期の「簿記原理Ⅱ」、「環境会計」の礎とします。

【評価方法】

定期試験結果により評価する

【テキスト】

- (ア) スッキリわかる 日商簿記3級

【参考文献】

簿記原理Ⅱ

担当教員 井口 千秋

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

簿記は経済社会において有用な道具として広く利用されています。例えば、大企業では、一日に何億もの資金を動かしています。この膨大な取引を整理しているのが簿記であります。また、一方では、小さな商店や個人事業であっても簿記を利用して取引を整理しています。簿記はこのような企業の取引を記録し、「財務諸表」という報告書にまとめる技術です。このように現在社会において欠かせない簿記について本講義では、簿記原理Ⅰで学習したことを踏まえながら、技術の習得とともに、特徴の理解を深めていただきます。

【授業の展開計画】

- 第10章 費用・収益の見越・繰延
- 第11章 消耗品（消耗品費）の処理
- 第12章 資本金と引出金
- 第13章 伝票会計
- 第14章 試算表
- 第15章 精算表
- 第16章 帳簿の締切り及び振替

【履修上の注意事項】

- (ア) 電卓、赤ペン、定規持参。(イ) 各回の授業は相互に関連して一体となっています。欠席すると全体像がつかめなくなりますので、万一欠席した場合は、必ずその部分を自分自身で補う必要があります。
- (ウ) 「簿記原理Ⅰ」を学習したものの者を中心とし、簿記の基本について講義します。
- (エ) 簿記検定試験の受験などで成果の確認を行うことをお勧めします。
- (オ) 「環境会計」の礎とします。

【評価方法】

定期試験結果により評価する

【テキスト】

- (ア) スッキリわかる 日商簿記3級

【参考文献】

マクロ経済学 I

担当教員 野崎 四郎

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

マクロ経済学で扱う問題は私たちの生活に深く関係するものばかりである。たとえば、一国の国内で、ある期間に生産されたモノとサービスの総額を国内総生産というが、この国内総生産が増えれば、人々の所得も増え、物質的な生活も豊かになる。雇用機会も増えて失業者も減少する。逆に、景気が悪くなって国内総生産が減少すれば、人々の所得も減少し、暮らしは苦しくなる。企業から解雇されて失業する人も増えるし、学校を卒業しても就職先がなかなかみつからないといった事態が生ずる。マクロ経済学を実践的な立場で講義する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	日本経済の環境と変動
2	マクロ経済学とはなんだろうか
3	GDPを理解する
4	名目値と実質値
5	消費と投資
6	政府支出と純輸出
7	有効需要の原理と国民所得の決定
8	45度線分析と乗数理論
9	貨幣市場と利子率、貨幣の定義
10	貨幣需要と貨幣の供給
11	マネーサプライのコントロールと貨幣市場の均衡、利子率の決定
12	I S 曲線と LM 曲線
13	財政金融政策の効果
14	マンデル＝フレミング・モデル
15	固定為替相場制下のマンデル・フレミング・モデル
16	変動為替相場制下のマンデル・フレミング・モデル

【履修上の注意事項】

【評価方法】

試験、課題の提出、出席状況で総合的に評価を行う。試験は中間、最終を実施する。

【テキスト】

「マクロ経済学入門」中谷巖著日本経済新聞出版社（2007年1月発行）

【参考文献】

「入門マクロ経済学」（第5版）中谷巖 著 スタディガイド 入門マクロ経済学（第5版）」 大竹文雄 著
日本評論社

マクロ経済学Ⅱ

担当教員 野崎 四郎

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

マクロ経済学で扱う問題は私たちの生活に深く関係するものばかりである。たとえば、一国の国内で、ある期間に生産されたモノとサービスの総額を国内総生産というが、この国内総生産が増えれば、人々の所得も増え、物質的な生活も豊かになる。雇用機会も増えて失業者も減少する。逆に、景気が悪くなって国内総生産が減少すれば、人々の所得も減少し、暮らしは苦しくなる。企業から解雇されて失業する人も増えるし、学校を卒業しても就職先がなかなかみつからないといった事態が生ずる。マクロ経済学を実践的な立場で講義する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	価格が動く経済を考える
2	総需要曲線
3	総供給曲線
4	所得と物価水準の決定
5	財政金融政策の効果・再考
6	財政政策の効果と金融政策の効果
7	価格上昇によるクラウディング・アウト
8	インフレとデフレ、フィリップス曲線
9	期待を想定したフィリップス曲線
10	長期のフィリップス曲線
11	期待インフレ率をどう考えるか
12	インフレとデフレの社会的コスト
13	より進んだ消費の理論 (1) ライフサイクル仮説
14	より進んだ消費の理論 (2) 恒常所得仮説
15	より進んだ投資の理論 (1) 加速度原理とストック調整モデル
16	より進んだ投資の理論 (2) 調整費用モデルとトービン q 理論

【履修上の注意事項】

【評価方法】

試験、課題の提出、出席状況で総合的に評価を行う。試験は中間、最終を実施する。

【テキスト】

「マクロ経済学入門」中谷巖著日本経済新聞出版社（2007年1月発行）

【参考文献】

「入門マクロ経済学」（第5版）中谷巖著日本評論社、スタディガイド入門マクロ経済学（第5版）」大竹文雄著日本評論社

ミクロ経済学 I

担当教員 呉 錫畢

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

人々は、モノを買う、また生産して売る、つまり経済活動なしには生活ができない。しかし、このようなモノには資源が必要である。ところが、資源には限りがあり、人間の欲望には限りがない。そのためにどのような資源をいかに配分・生産し、その生産物をどのように分配するかという問題に対処しなければならない。これらの課題を分析対象とするのがミクロ経済学である。本講義では経済学における基本的諸概念の正確な理解を目指す。しかし、単なる経済用語の定義の学習に留まらず、理論的把握を心がける。また、居酒屋で生ビールとつまみをどう組合せば最も満足できる選択になるか、学問的に考察する。

【授業の展開計画】

- 1週目：ミクロ経済学と経済生活
- 2週目：資源とは？、その希少性とは？
- 3週目：財とは何か？
- 4週目：価格とは何か？
- 5週目：時間と財の関係
- 6週目：リスクと財の関係
- 7週目：オークションとそのしくみ
- 8週目：市場の失敗と市場の構築
- 9週目：需要の価格弾力性
- 10週目：諸費者余剰
- 11週目：複数財の選択と無差別曲線
- 12週目：消費者の最適選択
- 13週目：所得の変化と需要の変化
- 14週目：代替効果と所得効果
- 15週目：貯蓄の決定
- 16週目：期末試験

【履修上の注意事項】

講義を聴いている人に迷惑をかけること。

【評価方法】

期末試験、レポート、出欠等を参照

【テキスト】

佐々木宏夫（2011）『図解ミクロ経済学入門』、ナツメ社。

【参考文献】

- (1) 石川秀樹（2007）『新経済学入門塾Ⅱミクロ編』、中央経済社。
- (2) ジョセフ・スティグリッツ（1995）『ミクロ経済学』、東洋経済新報社。

ミクロ経済学Ⅱ

担当教員 呉 錫畢

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

人々は、モノを買う、また生産して売る、つまり経済活動なしには生活ができない。しかし、このようなモノには資源が必要である。ところが、資源には限りがあり、人間の欲望には限りがない。そのためにどのような資源をいかに配分・生産し、その生産物をどのように分配するかという問題に対処しなければならない。これらの課題を分析対象とするのがミクロ経済学である。本講義では経済学における基本的諸概念の正確な理解を目指す。しかし、単なる経済用語の定義の学習に留まらず、理論的把握を心がける。また、学園祭から企業の理論を探り、学問的に考察する。

【授業の展開計画】

- 1週目：企業の行動と供給曲線
- 2週目：供給の価格弾力性
- 3週目：企業の販売意欲
- 4週目：生産者余剰
- 5週目：生産とは何か？
- 6週目：費用最小化
- 7週目：短期と長期
- 8週目：限界費用と限界費用曲線
- 9週目：平均費用と平均可変費用
- 10週目：短期供給曲線
- 11週目：長期供給曲線
- 12週目：市場均衡とその望ましさ
- 13週目：市場の失敗
- 14週目：外部効果の問題点
- 15週目：外部効果の解決方法
- 16週目：期末試験

【履修上の注意事項】

講義を聴いている人に迷惑をかけること。

【評価方法】

期末試験、レポート、出欠等を参照

【テキスト】

佐々木宏夫（2011）『図解ミクロ経済学入門』、ナツメ社。

【参考文献】

- (1) 石川秀樹（2007）『新経済学入門Ⅱミクロ編』、中央経済社。
- (2) ジョセフ・スティグリッツ（1995）『ミクロ経済学』、東洋経済新報社。